

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2020年6月26日

【事業年度】 第97期(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

【会社名】 サイボー株式会社

【英訳名】 Saibo Co., Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 飯塚 剛 司

【本店の所在の場所】 埼玉県川口市前川1丁目1番70号

【電話番号】 048-267-5151(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役財務部長 米澤 幸 男

【最寄りの連絡場所】 (東京支店)東京都中央区日本橋人形町1丁目2番6号

【電話番号】 03-3667-5771(代表)

【事務連絡者氏名】 東京支店総務課課長代理 鎗木 直 樹

【縦覧に供する場所】 サイボー株式会社東京支店  
(東京都中央区日本橋人形町1丁目2番6号)  
株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

## 第1 【企業の概況】

## 1 【主要な経営指標等の推移】

## (1) 連結経営指標等

回次	第93期	第94期	第95期	第96期	第97期
決算年月	2016年3月	2017年3月	2018年3月	2019年3月	2020年3月
売上高 (千円)	8,247,814	8,300,597	8,311,235	8,438,524	7,601,074
経常利益又は 経常損失( ) (千円)	1,123,049	988,749	118,785	34,286	711,898
親会社株主に帰属する 当期純利益 又は親会社株主に帰属 する当期純損失( ) (千円)	506,314	824,015	59,401	79,385	65,190
包括利益 (千円)	212,247	1,288,097	183,481	201,390	351,354
純資産額 (千円)	15,439,218	16,539,027	16,536,512	16,113,271	15,582,147
総資産額 (千円)	27,510,252	28,067,649	27,840,757	26,290,663	27,351,496
1株当たり純資産額 (円)	1,036.78	1,114.06	1,102.05	1,066.65	1,027.39
1株当たり 当期純利益又は 当期純損失( ) (円)	37.96	62.05	4.49	6.02	4.94
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)	37.93	62.04			
自己資本比率 (%)	50.1	52.5	52.2	53.5	49.6
自己資本利益率 (%)	3.7	5.8			
株価収益率 (倍)	12.3	7.8			
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	1,339,962	777,851	322,261	784,251	738,015
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	2,365,313	231,395	1,015,529	578,762	3,443,711
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	410,886	458,072	90,526	857,948	2,480,877
現金及び現金同等物 の期末残高 (千円)	2,486,907	3,037,437	2,434,695	1,782,235	1,557,417
従業員数 〔外、平均臨時従業員数〕 (名)	129 〔58〕	125 〔52〕	120 〔49〕	115 〔36〕	107 〔20〕

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 第95期及び第96期における経常利益又は経常損失、親会社株主に帰属する当期純損失及び影響する各経営指標の減少は、当社の賃貸物件であるイオンモール川口の賃貸借契約が2018年9月に終了したことを受け、当該物件の残存価額等を2017年9月から2018年9月までの期間に減価償却が完了するように営業費用を追加計上した影響によるものであります。第97期における親会社株主に帰属する当期純損失及び影響する各経営指標の減少は、イオンモール川口の解体撤去が完了し、固定資産除却損(特別損失)を計上したことによるものであります。また、第97期の投資活動によるキャッシュ・フローの支出は、イオンモール川口の解体及び(仮称)イオンモール川口の着工に伴う支出等によるものであり、財務活動によるキャッシュ・フローの収入は、前述した支出を賄うための借入であります。

3. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益について第95期は希薄化効果を有する潜在株式は存在するものの、1株当たり当期純損失であるため、第96期及び第97期は希薄化効果を有する潜在株式は存在せず、また、1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。

4. 第95期から第97期の自己資本利益率及び株価収益率については、親会社株主に帰属する当期純損失であるため記載しておりません。

## (2) 提出会社の経営指標等

回次	第93期	第94期	第95期	第96期	第97期
決算年月	2016年3月	2017年3月	2018年3月	2019年3月	2020年3月
売上高 (千円)	6,985,660	7,107,975	7,239,714	7,320,848	6,543,911
経常利益又は 経常損失( ) (千円)	741,150	758,975	361,349	149,248	637,566
当期純利益又は 当期純損失( ) (千円)	327,038	719,193	293,197	173,312	44,665
資本金 (千円)	1,402,000	1,402,000	1,402,000	1,402,000	1,402,000
発行済株式総数 (千株)	14,000	14,000	14,000	14,000	14,000
純資産額 (千円)	11,574,774	12,376,639	11,882,209	11,364,306	10,881,978
総資産額 (千円)	23,387,719	23,659,523	23,984,210	22,311,605	23,187,379
1株当たり純資産額 (円)	850.46	918.86	890.89	851.72	814.90
1株当たり配当額 (うち1株当たり中間配当 額) (円)	14.00 (7.00)	14.00 (7.00)	17.00 (7.00)	14.00 (7.00)	14.00 (7.00)
1株当たり 当期純利益又は 当期純損失( ) (円)	23.87	53.05	21.83	13.00	3.35
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)	23.85	53.04			
自己資本比率 (%)	49.4	52.2	49.5	50.9	46.9
自己資本利益率 (%)	2.8	6.0			
株価収益率 (倍)	19.5	9.1			
配当性向 (%)	58.7	26.4			
従業員数 〔外、平均臨時従業員数〕 (名)	84 〔42〕	81 〔37〕	82 〔33〕	75 〔20〕	69 〔4〕
株主総利回り (%) (比較指標：配当込み TOPIX) (%)	84.8 (89.2)	90.6 (102.3)	93.6 (118.5)	84.1 (112.5)	80.6 (101.8)
最高株価 (円)	595	509	602	500	503
最低株価 (円)	434	421	459	380	334

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

- 第95期及び第96期における経常損失、当期純損失及び影響する各経営指標の減少は、当社の賃貸物件であるイオンモール川口の賃貸借契約が2018年9月に終了したことを受け、当該物件の残存価額等を2017年9月から2018年9月までの期間に減価償却が完了するように営業費用を追加計上した影響によるものであります。第97期における当期純損失及び影響する各経営指標の減少は、イオンモール川口の解体撤去が完了し、固定資産除却損(特別損失)を計上したことによるものであります。
- 潜在株式調整後1株当たり当期純利益について第95期は希薄化効果を有する潜在株式は存在するものの、1株当たり当期純損失であるため、第96期及び第97期は希薄化効果を有する潜在株式は存在せず、また、1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。
- 第95期から第97期の自己資本利益率、株価収益率及び配当性向については、当期純損失であるため記載しておりません。
- 第95期の1株当たり配当額17円には、創立70周年記念配当3円を含んでおります。
- 最高株価及び最低株価は、東京証券取引所市場第二部におけるものであります。

## 2 【沿革】

年月	沿革
1948年6月	埼玉県川口市前川町(現在地)において、資本金20,000千円をもって埼玉紡績株式会社を設立。
1949年11月	飯留織物株式会社の建物54,120m <sup>2</sup> 、織機304台、その他附属設備を買収して、生産を拡張。
1951年1月	大阪出張所を開設。
1952年10月	本社工場内に第2紡績工場新設。
1954年2月	川口市根岸に神根工場を新設、化繊紡績製造開始。
1958年4月	神根工場に刺繍レース機設置、レース製造開始。
1961年10月	東京証券取引所第2部上場。
1962年7月	埼玉興業株式会社(現連結子会社)を設立。
1962年12月	本社工場内に寝装工場新設、寝装品製造開始。
1967年2月	商号をサイボー株式会社に変更。
1969年7月	栃木サイボー株式会社を設立。
1973年9月	ヒタチレース株式会社を設立。
1978年4月	神根工場を分離し、神根サイボー株式会社(現連結子会社)を設立。
1978年9月	貿易部門設置。
1980年5月	フロリア株式会社(現連結子会社)を設立。
1981年7月	東京支店社屋を現在地に竣工。
1982年7月	紡績部門操業休止。
1984年4月	川口市内に大型ショッピングセンター「イオンモール川口(旧川口グリーンシティ)」を建設し、イオンモール(株)(旧(株)ダイヤモンドシティ)に賃貸。
1990年11月	川口市内の大型ショッピングセンター「イオンモール川口(旧川口グリーンシティ)」を増築し、イオンモール(株)(旧(株)ダイヤモンドシティ)に賃貸。
1994年1月	B P (Body repair and painting)工場新設、自動車の板金塗装開始。
1995年4月	アパレル部門設置。
1997年7月	織物部門自社操業休止。
1998年10月	織物部門の織物営業1課(織物製品)をレース部門と併合しテキスタイル部門を新設、また、織物営業2課(縫製品)をアパレル部門と併合し、織物部門を廃止。
2000年10月	本社事務所ビル新設。
2000年11月	本社敷地内に大型ショッピングセンター「イオンモール川口前川(旧ダイヤモンドシティキャラ)」を新設し、イオンモール(株)(旧(株)ダイヤモンドシティ)に賃貸。
2002年8月	ヒタチレース株式会社の商号をディアグリーンサイボー株式会社(現サイボー株式会社)に変更し、緑化事業を開始。
2004年2月	本社寝装工場生産中止。
2004年5月	彩貿(上海)貿易有限公司を設立。
2005年4月	B P工場を岩槻へ移転し、トヨタ生産方式で稼働開始。
2005年7月	テキスタイル部門をアパレル部門に併合。

年月	沿革
2006年 5 月	内部統制室を設置。
2007年10月	当社繊維部門を統一し、繊維事業本部を設置。
2007年11月	本社敷地内の大型ショッピングセンター「イオンモール川口前川」を増床し、イオンモール(株)に賃貸。
2008年10月	全社統一電算システム「SAP - ERPパッケージ」の導入。
2011年 3 月	ディアグリーンサイバー株式会社を吸収合併消滅会社として、当社に吸収合併。 リビング課(旧寝装部門)の事業を廃止。 大阪営業所を廃止。
2013年 4 月	自動車板金塗装修理事業を関連会社である株式会社NTワークスへ業務移管。
2013年10月	埼玉興業株式会社の自動車教習所事業を廃止。
2014年 4 月	栃木サイバー株式会社のレース事業をフロリア株式会社へ事業譲渡。
2014年12月	栃木サイバー株式会社を清算結了。
2015年10月	日宇産業株式会社を買収。
2018年 1 月	彩貿(上海)貿易有限公司を事業譲渡。
2018年 9 月	「イオンモール川口」の賃貸借契約が終了。

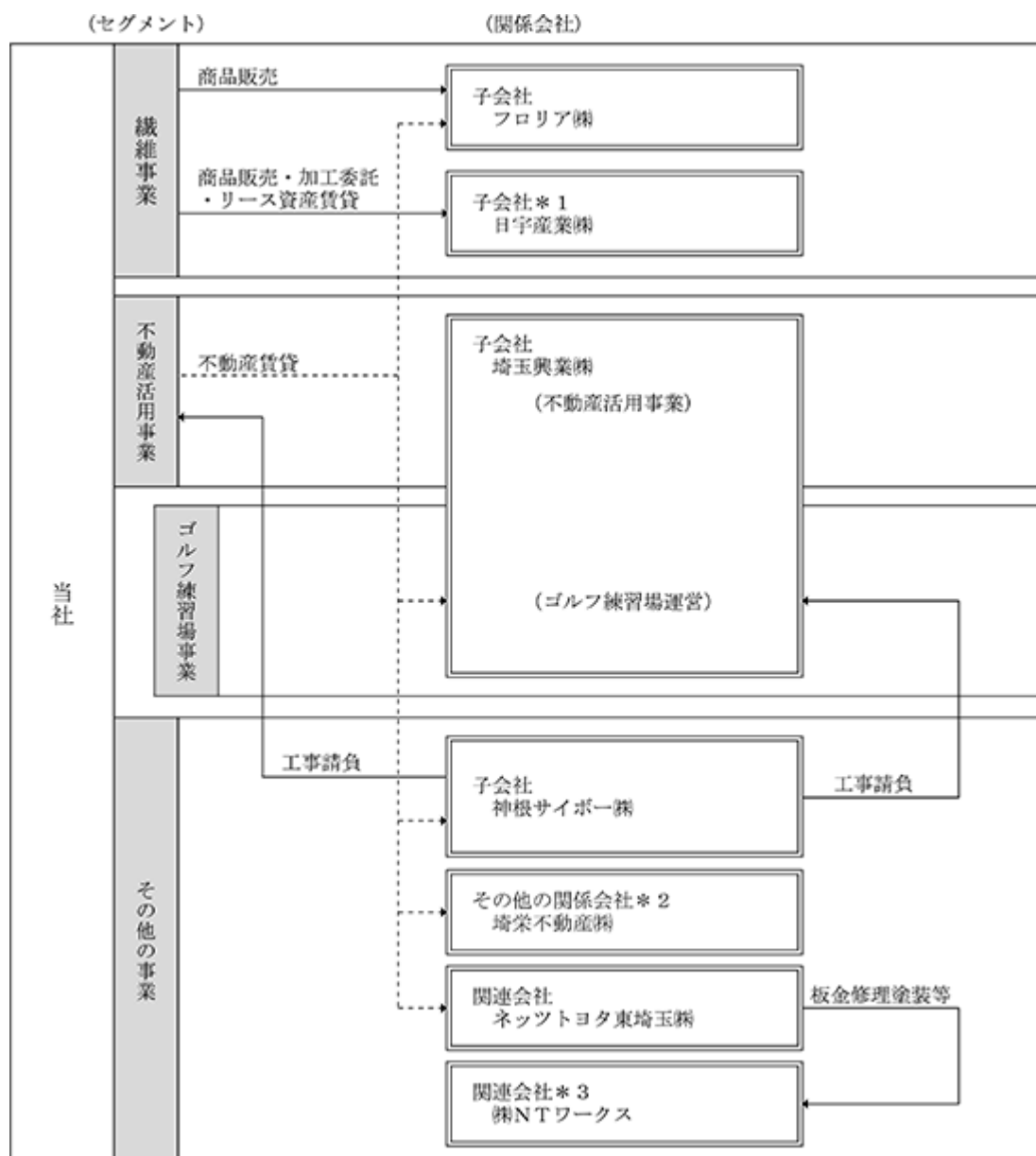
### 3 【事業の内容】

当社グループは、当社、子会社4社、関連会社2社その他の関係会社1社で構成され、繊維製品の製造・販売に係る事業、不動産の賃貸及びゴルフ練習場の運営を主な事業として取り組んでおります。

当社グループにおけるセグメント、事業内容及び当社グループ間における位置付けは、次のとおりであります。

セグメント	事業内容	主要な会社
繊維事業	ユニフォーム、衣料品、販促商品、レーヨン系、合繊系、合繊生地、麻生地、刺繍レースの製造販売、糸糊付加工、アウトドア関連商品	当社、フロリア(株)、日宇産業(株)*1
不動産活用事業	商業施設の賃貸、その他不動産の賃貸	当社、埼玉興業(株)
	ビルメンテナンスの運営	当社
ゴルフ練習場事業	ゴルフ練習場の運営	埼玉興業(株)
その他の事業	ギフト商品の販売	当社
	自動給水植木鉢の販売及び観葉植物レンタル業の緑化事業	当社
	内装工事を請負うインテリア施工事業	神根サイバー(株)
	トヨタ自動車の販売代理店の経営	ネットトヨタ東埼玉(株)
	自動車板金塗装修理事業	(株)NTワークス*3

以上で述べた事項について、事業系統図を示すと次のとおりであります。



- (注) \* 1 日宇産業㈱は非連結子会社で持分法非適用会社であります。  
 \* 2 その他の関係会社である埼玉不動産㈱は主に不動産賃貸業を営んでおり、当社は所有する不動産を賃貸しております。  
 \* 3 ㈱NTワークスは、関連会社であるネットヨタ東埼玉㈱が、100%出資しております。なお、同社は持分法非適用会社であります。

#### 4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業の内容	議決権の 所有<被所有> 割合 (%)	関係内容
(連結子会社)					
神根サイボー(株)(注) 1、2	埼玉県川口市	10	インテリア施工	40 (5)	土地建物の賃貸及び固定資産の修繕。 役員の兼任 2名
埼玉興業(株)(注) 2、3	埼玉県川口市	30	ゴルフ練習場の運営 不動産の賃貸	51 (33)	商品の販売及び土地建物の賃貸 並びに資金の借入。 役員の兼任 5名
フロリア(株)	東京都中央区	74	刺繍レースの製造販売	100	土地建物の賃貸及び製品の販売。 資金援助有り。 役員の兼任 1名
(持分法適用関連会社)					
ネットヨタ東埼玉(株)(注) 2	埼玉県川口市	82	自動車販売代理店の経営	36 [18] (13)	商品の販売及び土地建物の賃貸。 役員の兼任 3名
(その他の関係会社)					
埼玉不動産(株)(注) 2	埼玉県川口市	100	不動産賃貸業	2 [1] <16> (51)	商品の販売及び土地建物の賃貸。 役員の兼任 4名

(注) 1 持分は100分の50以下ですが、実質的に支配しているため子会社としたものであります。

2 議決権の所有<被所有>割合の[ ]内は、間接所有割合で、内数となっております。また、( )内は、緊密な者又は同意している者の所有割合で外数となっております。

3 埼玉興業(株)については、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く。)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等	(1) 売上高	920,729千円
	(2) 経常利益	66,774千円
	(3) 当期純損失	65,997千円
	(4) 純資産額	3,851,392千円
	(5) 総資産額	4,239,692千円

#### 5 【従業員の状況】

##### (1) 連結会社の状況

2020年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
繊維事業	53[ 1]
不動産活用事業	2[ ]
ゴルフ練習場事業	19[16]
その他の事業	14[ ]
全社(共通)	19[ 3]
合計	107[20]

(注) 1 従業員数は就業人員であり、臨時従業員数は[ ]内に年間の平均人員を外数で記載しております。

2 全社(共通)として、記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門に所属しているものであります。



(2) 提出会社の状況

2020年3月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
69 [ 4 ]	46.7	18.3	4,897

セグメントの名称	従業員数(名)
繊維事業	38[ 1 ]
不動産活用事業	2[ - ]
その他の事業	10[ - ]
全社(共通)	19[ 3 ]
合計	69[ 4 ]

- (注) 1 従業員数は就業人員数であり、臨時従業員数は[ ]内に年間の平均人員数を外数で記載しております。  
 2 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含めております。  
 3 全社(共通)として、記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門に所属しているものであります。

(3) 労働組合の状況

当社は、U Aゼンセンに加入しております。

なお、労使関係については円滑な関係にあり、特記すべき事項はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において、当社グループが判断したものであります。

#### (1) 会社の経営の基本方針

当社グループの経営基本方針は、「顧客重視」「株主重視」「社員・地域重視」を掲げて、豊かな生活に役立つ商品・サービスを提供して地域経済の発展に寄与するとともに、資本効率ならびに収益性を高めて、株主の皆様へ報いる企業価値の向上を目指すことが大変重要であると考えております。

#### (2) 目標とする経営指標

株主の皆様に対する安定配当及び当社グループにおける事業の健全な財務体質を維持することを目的として「1株当たり当期純利益」を、当社グループが保有する資産の有効活用による収益の確保を目指すことを目的として「総資産経常利益率」を、当社グループでの収益性の向上を目指すことを目的として「売上高経常利益率」を、それぞれ重視した経営を目指しております。

#### (3) 中長期的な会社の経営戦略及び対処すべき課題

当社は、2020年4月から「3カ年中期経営計画」をスタートしました。その目標は、「繊維事業の黒字化」、安定した収益を生み出す「不動産活用事業のさらなる拡充」、当社グループにおける「その他の事業の収益貢献度の向上」であります。

繊維事業のなかで損失の大きな要因であったメンズカジュアル商品販売は、国内における衣料品の需要回復が見込めないことから2020年3月末日をもって事業を終了しました。生地・原糸販売は、現状の取扱商品に対して需要の落ち込みが続いており、新たな環境配慮型素材を用いた商品により需要回復を目指します。ユニフォーム販売は、百貨店と直需向けの営業体制に分け、営業活動の強化を図ってまいります。キャンプ関連商品は、アウトドア市場が拡大基調にあることから、さらなる販売強化を図るため、2020年4月よりアウトドア部として独立させ、事業拡大に注力します。

不動産活用事業では、埼玉県内に多くの商業施設が点在しているものの、大型商業施設である「イオンモール川口前川」は需要圏内でも最大規模の商業施設であり、人口が密集する住宅地、幹線道路等の近接性に優れており、お客様からも評価されています。このような環境下であっても、競合他社に比べ常に優位性を維持するよう、設備の改修、改善を行い、魅力ある施設の維持に努めてまいります。また、「イオンモール川口」の跡地を含む周辺一帯の再開発については、イオンモール㈱と建物賃貸借基本協定を締結し、新しい大型商業施設「(仮称)イオンモール川口」の建設を進めており、2021年3月竣工を目指しております。

ゴルフ練習場事業は、ゴルフ人口の減少や高齢化に対して、SNSを利用した情報発信やクーポン発行等のきめ細かなサービス向上により、既存顧客の定着化や若者、ジュニアの新規利用者の増加を図ってまいります。またキャッシュレス化を進めるなど、利用しやすい施設を目指してまいります。

その他の事業では、ディアグリーン課の緑化事業は、当社独自の環境にやさしい自動給水システムによる観葉植物のレンタルを中心に、オフィス等の環境改善に役立つ事業を展開してまいります。インテリア施工事業は、一般施工件数を増加させ事業の安定化を推進します。

以上のような各事業の計画を実現させるため、経営理念の「お客様によるこぼれる商品の提供」を事業の基本として、「株主の皆様へ報いる企業価値の向上」への取り組みをさらに推進します。また、「働き方改革関連法」の施行にともない労働時間法制の見直しを推進させ、社員が実感できる「魅力ある職場づくり」に取り組んでまいります。

当社グループは、業容の拡充による企業価値の向上を第一義として、社会的責任を全うする観点から内部統制システムを充実させ、企業組織の活性化と社員一人ひとりの法令遵守に意を用いて、内外の信頼と評価をさらに高めてまいります。

本報告書作成日時点において、新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない状況であり、当社グループの事業に与える影響の範囲や金額等並びに取引先における状況等に対して調査中であることから、経営戦略等の見直しは行っておりません。

## 2 【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があると認識している主要なリスクは、以下のとおりであります。また、当該リスクが顕在化する可能性の程度や時期、当該リスクが顕在化した場合に当社グループの経営成績等の状況に与える影響につきましては、合理的に予見することが困難であるため記載しておりません。当社は、リスク管理の基本方針及び管理体制を「リスク管理規程」、「危機管理規程」において定め、リスクの未然防止、リスクが顕在化した際の対応を取り決めております。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

### (1) 経済状況

当社グループは市況製品を展開しており、他社との競合に伴う市場価格の変動や為替相場の変動により業績に大きな影響を受ける可能性があります。特に繊維品は中国を中心に委託生産を展開しており、競合他社が現地でより安い労働力で生産した場合、価格競争が熾烈化し売上に大きな影響を受ける可能性があります。また、繊維品は中国、台湾等からの輸入比率が高く、急激な為替変動は業績に影響を及ぼします。

### (2) 製品の欠陥等

当社グループは国内及びアジア諸国において、技術指導、検品指導を強化し品質管理を徹底しておりますが、欠陥製品が発生しないという保証はありません。また、製造物責任賠償については保険に加入しておりますが、この保険が最終的に負担する賠償額を十分にカバーできるという保証はありません。このため製品の欠陥により当社グループの業績と財務状況、社会的評価等に悪影響を及ぼす可能性があります。

### (3) 海外活動にかかわるもの

当社グループの繊維品は、中国、台湾等アジア諸国で委託生産を展開しており、次のようなリスクがあります。そのため、これらの事象が発生した場合は、当社グループの業績と財務状況等に悪影響を及ぼす可能性があります。

- ・ 予期しえない法律・規制、不利な影響を及ぼす租税制度の変更
- ・ 不利な政治的要因の発生
- ・ テロ、戦争等による社会的混乱

### (4) 特定の取引先の高い依存度について

当社グループは、イオンモール㈱に対する、大型商業施設の賃貸及びビルメンテナンス請負等の取引があり、当連結会計年度の同社との取引高は、売上高に対して22.4%（前年同期23.4%）と高い比率であります。同社が事業戦略上又はその他の事由により当社グループとの取引状況を変更した場合、当社グループの業績や財務状況等に影響を及ぼす可能性があります。また、同社からは大型商業施設の賃貸に当たり多額の保証金を受領しており、解約による保証金の返済が発生した場合、当社の保有する資金が大幅に減少する可能性があります。

### (5) 有形固定資産に係るリスク

当社グループが保有している土地・建物等の有形固定資産の市場価格が大幅に下落または賃貸借契約の解約等により採算性が低下した場合は、減損損失または減価償却費の追加計上（加速償却）を行うこととなり、当社グループの業績と財務状況等に影響を及ぼす可能性があります。

### (6) 投資有価証券に係るリスク

当社グループが保有している株式等の投資有価証券の市場価格が大幅に下落した場合は、評価損の発生により当社グループの業績と財政状況等に影響を及ぼす可能性があります。

### (7) 新型コロナウイルス感染症拡大による経済的影響

新型コロナウイルス感染症拡大が、国内において収束に向かわず、長期間に渡り続いた場合は、経済活動に深刻な影響が生じると考えられます。そのような状況下においては、繊維事業では個人消費の冷え込みにより市場が縮小し、不動産活用事業では賃借人から賃貸料の引き下げ要請を受ける恐れがあり、ゴルフ練習場事業では政府等の要請により営業自粛を行わざるを得ない事態が発生することで売上高の減少が予想され、当社グループの事業展開及び経営成績に重要な影響を及ぼす可能性があります。

### 3 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 経営成績の状況等の概要

##### (ア) 経営成績の状況

当連結会計年度におけるわが国経済は、政府・日銀による経済政策を背景に、企業収益や雇用・所得環境が改善し緩やかな回復基調がみられたものの、米中貿易摩擦や消費税増税の影響などにより、景気の先行きは不透明な状況で推移しました。さらに2020年に入ってから新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大による経済活動の停滞が見られる状況となっております。

当社グループにおける事業環境は、繊維事業では上期まではユニフォーム業界の堅調な商いに支えられていましたが、ここに来て需要に翳りがみえ、また百貨店を中心とした衣料品の伸び悩みも依然として続いており、厳しい状況で推移しました。不動産活用事業は、大型商業施設「イオンモール川口」が2018年9月に賃貸借契約を終了した影響から賃貸収入が減少しました。一方、その他の賃貸物件である「イオンモール川口前川」や病院施設等からの安定した賃貸収入を維持しており、営業収益の安定化が図られております。

この結果、当連結会計年度の売上高は7,601百万円（前期比9.9%減）となりました。営業利益は716百万円（前期は91百万円の営業損失）となり、経常利益は711百万円（前期は34百万円の経常利益）となりました。親会社株主に帰属する当期純損失は65百万円（前期は79百万円の同純損失）となりました。この主な要因は、不動産活用事業において固定資産除却損を計上したこと及び、ゴルフ練習場事業が新型コロナウイルス感染症の影響により、次期以降、営業自粛による減益を見込んだことから、繰延税金資産の回収可能性を見直し、繰延税金資産を取り崩したことによるものであります。

事業別セグメントの概況は次のとおりであります。なお、事業別セグメントの売上高及び営業利益又は損失は、セグメント間の内部取引消去前の金額であります。

##### 繊維事業

マテリアル部は、生地販売が衣料品の国内需要の落ち込みにより、また原系販売が産地の生産調整により需要が減少し、減収減益となりました。

アパレル部は、上期まで順調に推移した法人ユニフォームの直需とスポーツ関連商品の受注が下期は低調となり、減収減益となりました。

カジュアル部は、キャンプ関連商品がアウトドア市場の拡大により需要が増加して増収となり、またメンズカジュアル商品が不採算店舗の撤退を進めたことから費用が減少し、営業損失が縮小しました。

刺繍レースを扱うフロリア(株)は、新規販売先との取引が増加したものの、服地及び付属レースの需要が減少したことから減収となり、営業損失は増加しました。

この結果、繊維事業の売上高は4,422百万円（前期比11.6%減）となり、営業損失は72百万円（前期は41百万円の営業損失）となりました。

##### 不動産活用事業

不動産活用事業は、2018年9月に「イオンモール川口」の賃貸借契約が終了したことから、減収となりましたが、前期に実施していた加速償却による多額の費用計上がなくなった影響から増益となりました。「イオンモール川口前川」は、近隣の大型商業施設に比べ回遊型ショッピングができるというお客様の利便性と近隣住民の生活環境にあった専門店選びが評価されており、さらに埼玉県内の医療体制の充実を目的とした病院施設を賃貸することにより不動産活用事業は安定した収益基盤を維持しております。なお、「イオンモール川口」は、2019年9月に解体が完了し、当連結会計年度に解体撤去費用664百万円を特別損失に計上しております。また、未活用不動産であった2箇所に新たな建物等を建築し、賃貸を開始しております。さらに、不足している産婦人科を誘致し地域に貢献するとともに安定収益を維持するために「かわぐちレディースクリニック」の賃貸を、2020年4月に開始しました。

この結果、不動産活用事業の売上高は2,258百万円（前期比8.8%減）、営業利益は696百万円（前期は141百万円の営業損失）となりました。

#### ゴルフ練習場事業

埼玉興業(株)が営む川口・黒浜・騎西の各グリーンゴルフ練習場のうち、最大規模の川口グリーンゴルフ練習場において、SNSを利用した情報発信やサービスの向上に注力したことにより入場者が増加し、消費税率の引き上げによる影響も少なく増収となりました。また、当期は、前期のような設備更新工事による多額な費用計上がなく、増益となりました。

この結果、ゴルフ練習場事業の売上高は894百万円(前期比2.6%増)、営業利益は80百万円(前期比9.9%増)となりました。

#### その他の事業

ディアグリーン課の緑化事業は、観葉植物の新規レンタル契約獲得とギフト品販売の受注増加により増収となり、また経費が削減され営業損失は減少しました。

神根サイボー(株)のインテリア施工事業は、一般住宅施工が増えたことや、大口物件の受注もあり増収増益となりました。

この結果、その他の事業の売上高は571百万円(前期比21.0%増)、営業利益は33百万円(前期比93.0%増)となりました。

#### (イ)財政状態の状況

当連結会計年度末の総資産は、前連結会計年度末に比べ1,060百万円増加して27,351百万円となりました。これは主に現金及び預金や投資有価証券が減少したものの、賃貸目的の設備の竣工による建物及び構築物の増加や、新しい大型商業施設等の建設着工に伴う建設仮勘定の増加等によるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べ1,591百万円増加して11,769百万円となりました。これは主に支払手形及び買掛金や流動負債の資産除去債務、1年内返還予定の預り保証金が減少したものの、建設のための資金需要が増した影響で長期借入金が増加したこと等によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ531百万円減少して15,582百万円となりました。これは主に親会社株主に帰属する当期純損失の計上やその他有価証券評価差額金が減少したこと等によるものであります。

#### (ウ)キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は前連結会計年度末に比べ224百万円減少して1,557百万円となりました。

##### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、得られた資金は前連結会計年度に比べ46百万円減少して738百万円となりました。これは主に固定資産除却損の計上による増加や売上債権が減少したものの、減価償却費が大幅に減少したことや仕入債務が減少したこと等によるものであります。

##### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、支出した資金は前連結会計年度に比べ2,864百万円増加して3,443百万円となりました。これは主に投資有価証券の売却による収入が増加したものの、有形固定資産の取得による支出や、固定資産の除却による支出が増加したこと等によるものであります。

##### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、得られた資金は前連結会計年度に比べ3,338百万円増加して2,480百万円となりました。これは主に長期借入れによる収入が増加したこと等によるものであります。

(工)生産、受注及び販売の状況

当連結会計年度の「生産、受注及び販売の実績」をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

「生産実績」の金額は、当期製造費用、「商品仕入実績」の金額は、仕入価格で記載しており、それ以外のものは、販売価格によっております。また、セグメント間の取引については、相殺消去しております。なお、金額には消費税等は含まれておりません。

生産実績

セグメントの名称	生産高(千円)	前期比(%)
繊維事業	423,841	19.3
その他の事業		
合計	423,841	19.3

商品仕入実績

セグメントの名称	仕入高(千円)	前期比(%)
繊維事業	3,224,398	10.8
その他の事業	12,405	5.0
合計	3,236,803	10.7

受注実績

セグメントの名称	受注高(千円)	前期比(%)	受注残高(千円)	前期比(%)
繊維事業	4,460,029	9.7	432,114	12.0
その他の事業	305,350	17.8	21,623	2.4
合計	4,765,379	10.3	453,737	11.5

販売実績

セグメントの名称	販売高(千円)	前期比(%)
繊維事業	4,413,719	11.7
不動産活用事業	1,987,981	9.9
ゴルフ練習場事業	894,530	2.6
その他の事業	304,842	16.3
合計	7,601,074	9.9

(注) 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合

相手先	前連結会計年度		当連結会計年度	
	販売高(千円)	割合(%)	販売高(千円)	割合(%)
イオンモール㈱	1,971,265	23.4	1,700,037	22.4
キャンパルジャパン㈱	519,898	6.2	769,175	10.1

## (2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

## 財政状態及び経営成績の状況に関する認識及び分析・検討内容

当連結会計年度の売上高は、前期に比べ9.9%減少して7,601百万円となりました。繊維事業では、アウトドア市場が活発な状況が続いたことでキャンプ関連商品は増収となりましたが、全体的には、前期に比べ国内衣料品需要が低迷している状況から減収となりました。このような状況下で、メンズカジュアル商品の回復は厳しく事業継続は困難であると判断し、2020年3月末の事業終了に向けて在庫の処分を進めてまいりました。この結果、繊維事業の売上高は前期に比べ11.6%減少しました。不動産活用事業は、2018年9月に「イオンモール川口」の賃貸借契約が終了したことから、前期には含まれていた6ヵ月分の賃貸収入が、当期はなくなったため、前期に比べ8.8%減少しました。ゴルフ練習場事業は、SNSを利用した情報発信やサービスの向上に努め、来場者が増え前期に比べ2.6%増加しました。その他の事業は、緑化事業が胡蝶蘭等の花卉ギフト品の注文が増え、またインテリア施工事業は大口工事の受注を獲得したことから、前期に比べ21.0%増加しました。

売上原価は前期に比べ21.8%減少して5,501百万円、販売費及び一般管理費は7.6%減少して1,383百万円となりました。売上原価は前期に「イオンモール川口」の加速償却により減価償却費を追加計上していましたが、この影響が当期はなくなったことが主な減少要因であります。販売費及び一般管理費は、前述した通りメンズカジュアル商品販売の撤退決定に伴い前期から引き続き百貨店に係る経費が減少したこと等によるものであります。

営業利益は716百万円（前期は91百万円の営業損失）となりました。繊維事業は減収の影響から損失が増加しました。不動産活用事業は減価償却費が前期に比べ大幅に減少し増益となりました。また、当期は保有する土地のさらなる有効活用を目的に新たな賃貸施設を建設し賃貸を開始しました。ゴルフ練習場事業は入場者が増加したことから増益となりました。その他の事業は、主にインテリア施工事業の受注増加により増益となりました。

経常利益は711百万円（前期は34百万円の経常利益）となりました。これは主に、営業利益が大幅に増加したものの、補助金収入がなくなり営業外収益が減少し、固定資産除却損や貸倒引当金繰入額の増加により営業外費用も増加したこと等によるものであります。

特別損失は、「イオンモール川口」の解体撤去が2019年9月に完了したことで、その費用664百万円を固定資産除却損として計上し、また保有する投資信託1銘柄に対して投資有価証券評価損13百万円を計上しました。

親会社株主に帰属する当期純損失は65百万円（前期は79百万円の同純損失）となりました。これは主に連結子会社が繰延税金資産の回収可能性の見直しを行い、繰延税金資産を取り崩したことから、法人税等調整額が増加した影響によるものであります。

当社が進めている「（仮称）イオンモール川口」については、次のような状況です。

当社は、イオンモール(株)との間で大型商業施設の建物賃貸借基本協定を締結し、大型商業施設「（仮称）イオンモール川口」の着工を既に行っております。当該物件の当社負担額は14,000百万円、引渡し予定は2021年3月であり、現在順調に建設が進んでおります。

当期は、「イオンモール川口」の解体撤去費用や「（仮称）イオンモール川口」の着工等による支出に充てるため、借入金が大幅に増加しました。次期には竣工を予定しており、有形固定資産及び借入金が増加する見込みです。また、前々期、前期と「イオンモール川口」の加速償却により減価償却費が増加し、当期には、その解体撤去費用を計上したことで3期連続して最終損失を計上するに至りました。

## キャッシュ・フローの状況の分析・検討内容並びに資本の財源及び資金の流動性に係る情報

当社グループの当連結会計年度のキャッシュ・フローは、「イオンモール川口」の賃貸収入がなくなったものの、営業活動によるキャッシュ・フローは安定的な資金を獲得できています。一方、投資活動によるキャッシュ・フローは「（仮称）イオンモール川口」の着工や、新たに賃貸物件3棟を竣工したこと等から、有形固定資産の取得として2,670,369千円を支出し、さらに「イオンモール川口」等の解体撤去として1,010,702千円の支出を行いました。この支出を賄うため、新たに長期借入れにより3,300,000千円の資金を調達しました。

なお、当社が開発を進めている「（仮称）イオンモール川口」の建設資金については、賃借人からの保証金のほか、銀行からの借入により賄う予定であります。

当社グループの資本の財源及び資金の流動性について、事業運営上必要な流動性と資金の源泉を安定的に確保することを基本方針としております。運転資金需要のうち主なものは、繊維製品の購入や賃貸等設備の維持管理に係る費用及び販売費及び一般管理費等の営業費用であります。投資を目的とした資金需要は主に設備投資等によるものであります。短期運転資金は自己資金及び金融機関からの短期借入を基本としており、賃貸等設備への設備投資に係る資金調達につきましては、賃借人からの保証金のほか、金融機関からの長期借入を基本としてお

ります。

重要な会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表作成に当たって、必要と思われる見積りは合理的な基準に基づいて行っております。詳細につきましては、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項) 4 会計方針に関する事項及び(追加情報)」に記載のとおりであります。

経営方針、経営戦略、経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等

当社グループが目標とする経営指標は、「1 経営方針、経営環境及び対処すべき課題等 (2) 目標とする経営指標」に記載のとおりであります。当連結会計年度の「1 株当たり当期純損失」は、前期比1円8銭改善して4円94銭となり、「総資産経常利益率」は前期比2.6ポイント増加して2.7%となり、「売上高経常利益率」は前期比9.0ポイント増加して9.4%となりました。各指標が前期に比べ改善している主な理由につきましては、前述しております「 財政状態及び経営成績の状況に関する認識及び分析・検討内容」をご参照ください。



#### 4 【経営上の重要な契約等】

##### (1) 賃貸借契約

契約会社	契約先名	契約期間	賃貸物件名
サイボー(株)	イオンモール(株)	自 2007年11月21日 至 2027年11月20日	イオンモール川口前川

敷地面積 71,819㎡

建物延面積 133,681㎡

保証金(契約時元本額) 2,940,000千円

- (注) 1. 2007年11月21日に増床建物が竣工したことにより、既存建物を含めた賃貸借契約が変更されました。  
2. 当連結会計年度において、建設協力金は分割返済により、完済しましたので記載を省略しております。

(2) 当社は、2019年7月19日開催の取締役会において、イオンモール(株)との間で大型商業施設の建物賃貸借基本協定を締結したことを踏まえ、建設施工会社と工事請負契約を締結することを決議し、同日付で当該契約を締結いたしました。

##### 1. 契約の目的

イオンモール(株)に大型商業施設を賃貸するため

##### 2. 契約の相手会社

株式会社安藤・間

##### 3. 建築物件の内容

名称 (仮称)イオンモール川口

所在地 埼玉県川口市大字安行領根岸字外谷田3180番地外

概要 大型商業施設

敷地面積 約 78,000㎡

延床面積 約125,000㎡

建築価額 140億円(工事請負契約に基づく価額であり、変更になる場合があります。)

引渡日 2021年3月予定

#### 5 【研究開発活動】

特記すべき事項はありません。

### 第3 【設備の状況】

#### 1 【設備投資等の概要】

当社グループは、賃貸不動産のさらなる安定収益確保と既存設備の維持に重点を置いた設備投資を行っております。当連結会計年度の設備投資の総額は2,794,884千円となりました。

主なものは、繊維事業において、糸糊付加工設備113,740千円、不動産活用事業において、「(仮称)イオンモール川口」の建設を含む再開発費用等が1,293,168千円、新たな賃貸施設の建設工事798,695千円、大型商業施設の維持管理工事123,439千円、ゴルフ練習場事業において、ゴルフ練習場の維持管理工事等456,542千円であります。

#### 2 【主要な設備の状況】

##### (1) 提出会社

2020年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の 内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (臨時従 業員数) (名)	
			建物 及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	土地 (面積㎡)	リース 資産	その他		合計
本社 (埼玉県川口市)	その他の 事業及び 全社的管 理業務	建物の一 部を賃貸 及び本社 機能	232,308	2,706	190,045 (1,563)	3,136	6,227	434,424	21 (3)
イオンモール 川口前川 (埼玉県川口市)	不動産活 用事業	商業施設 として賃 貸	5,467,023		1,538,56 5 (71,819)		14,866	7,020,455	
かわぐち心臓呼吸器病 院 (埼玉県川口市)	不動産活 用事業	病院施設 として賃 貸	1,416,143		115,856 (3,485)		6,571	1,538,571	

- (注) 1. 帳簿価額のうち、「建物及び構築物」には資産除去債務に対応する除去費用を含めており、「その他」は、工具、器具及び備品であります。  
なお、金額には消費税等を含めておりません。
2. 臨時従業員数は、外書きで( )内に記載しております。

(2) 国内子会社

2020年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額(千円)						従業員数 (臨時従業員数) (名)
				建物 及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	土地 (面積㎡)	リース 資産	その他	合計	
埼玉興業(株)	川口グリーンゴルフ (埼玉県川口市)	ゴルフ練習場事業	ゴルフ練習場の運営	850,194 [10,294]	0	821,465 (36,527) [306,609] <32,254>	1,068	160,537	1,833,265 [316,904]	11 (10)
	黒浜グリーンゴルフ (埼玉県蓮田市)	ゴルフ練習場事業	ゴルフ練習場の運営	26,389 [17,253]	0	198,238 (14,445) [95,238] <12,792>		1,821 [1,255]	226,449 [113,747]	4 (4)
	騎西グリーンゴルフ (埼玉県加須市)	ゴルフ練習場事業	ゴルフ練習場の運営	28,734 [25,561]	0	194,327 (13,611) [194,327] <13,611>		700 [0]	223,762 [219,888]	4 (2)
フロリア(株)	栃木工場 (栃木県那須烏山市)	繊維事業	刺繍レースの製造	18,541 [9,311]	1,734	13,270 (14,860) [13,270] <14,860>		57	33,604 [22,582]	9 ( )

- (注) 1. 帳簿価額のうち「その他」は、工具、器具及び備品であります。  
 なお、金額には消費税等を含めておりません。  
 2. 国内子会社で、親会社より賃借している物件の金額を[ ]で、面積を< >で、それぞれ内書きで記載しております。  
 3. 臨時従業員数は、外書きで( )内に記載しております。

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	投資予定額		資金調達方法	着手年月	完了予定 年月	完成後の 増加能力
				総額 (千円)	既支払額 (千円)				
提出 会社	(仮称)イオン モール川口 (埼玉県川口 市)	不動産活 用事業	商業施設 として賃 貸	14,000,000	1,071,950	借入金、預り保 証金、自己資金	2019年 7月	2021年 3月	

- (注) 1. 上記の金額に消費税等は含まれておりません。  
 2. 上記の投資予定額には、事前に行った土壌汚染調査等の建物の取得価額に含めるべきコストは含めておりません。

(2) 重要な設備の除却等

該当事項はありません。

## 第4 【提出会社の状況】

### 1 【株式等の状況】

#### (1) 【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	48,000,000
計	48,000,000

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (2020年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (2020年6月26日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	14,000,000	14,000,000	東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数は100株で あります。
計	14,000,000	14,000,000		

(注) 提出日現在発行数には、2020年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

決議年月日	2014年6月27日
付与対象者の区分及び人数(名)	当社取締役 6 その他 3(注)1
新株予約権の数(個)	当社取締役 280(注)2 その他 80(注)1、2
新株予約権の目的となる株式の種類、内容及び数(株)	普通株式 36,000(注)2
新株予約権の行使時の払込金額(円)	508(注)3
新株予約権の行使期間	2016年7月29日～2020年6月27日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 508 資本組入額 285
新株予約権の行使の条件	新株予約権1個当たり的一部行使はできないものとする。 新株予約権の割当てを受けたものは、権利行使時においても、当社の取締役若しくは従業員の地位にあることを要する。ただし、任期満了による退任、定年退職等その他正当な理由がある場合はこの限りではない。 その他の条件は、当社と新株予約権の割当てを受けたものとの間で締結した「新株予約権付与契約」で定めるところによる。
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡するときは、当社取締役会の決議による承認を要するものとする。
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注)4

決議年月日	2015年6月26日
付与対象者の区分及び人数(名)	当社取締役 6 その他 2(注)1
新株予約権の数(個)	当社取締役 310(注)2 その他 50(注)1、2
新株予約権の目的となる株式の種類、内容及び数(株)	普通株式 36,000(注)2
新株予約権の行使時の払込金額(円)	596(注)3
新株予約権の行使期間	2017年7月28日～2021年6月26日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 596 資本組入額 313
新株予約権の行使の条件	新株予約権1個当たり的一部行使はできないものとする。 新株予約権の割当てを受けたものは、権利行使時においても、当社の取締役若しくは従業員の地位にあることを要する。ただし、任期満了による退任、定年退職等その他正当な理由がある場合はこの限りではない。 その他の条件は、当社と新株予約権の割当てを受けたものとの間で締結した「新株予約権付与契約」で定めるところによる。
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡するときは、当社取締役会の決議による承認を要するものとする。
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注)4

決議年月日	2016年 6 月28日
付与対象者の区分及び人数(名)	当社取締役 6
新株予約権の数(個)	当社取締役 310(注) 2
新株予約権の目的となる株式の種類、内容及び数(株)	普通株式 31,000(注) 2
新株予約権の行使時の払込金額(円)	462(注) 3
新株予約権の行使期間	2018年 7 月27日 ~ 2022年 6 月28日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 462 資本組入額 246
新株予約権の行使の条件	新株予約権 1 個当たりの一部行使はできないものとする。 新株予約権の割当てを受けたものは、権利行使時においても、当社の取締役若しくは従業員の地位にあることを要する。ただし、任期満了による退任、定年退職等その他正当な理由がある場合はこの限りではない。 その他の条件は、当社と新株予約権の割当てを受けたものとの間で締結した「新株予約権付与契約」で定めるところによる。
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡するときは、当社取締役会の決議による承認を要するものとする。
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注) 4

決議年月日	2017年 6 月28日
付与対象者の区分及び人数(名)	当社取締役 9 その他 1 (注) 1
新株予約権の数(個)	当社取締役 340(注) 2 その他 30(注) 1、 2
新株予約権の目的となる株式の種類、内容及び数(株)	普通株式 37,000(注) 2
新株予約権の行使時の払込金額(円)	506(注) 3
新株予約権の行使期間	2019年 7 月27日 ~ 2023年 6 月28日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 506 資本組入額 265
新株予約権の行使の条件	新株予約権 1 個当たりの一部行使はできないものとする。 新株予約権の割当てを受けたものは、権利行使時においても、当社の取締役若しくは従業員の地位にあることを要する。ただし、任期満了による退任、定年退職等その他正当な理由がある場合はこの限りではない。 その他の条件は、当社と新株予約権の割当てを受けたものとの間で締結した「新株予約権付与契約」で定めるところによる。
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡するときは、当社取締役会の決議による承認を要するものとする。
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注) 4

決議年月日	2018年6月28日
付与対象者の区分及び人数(名)	当社取締役 9 その他 1(注)1
新株予約権の数(個)	当社取締役 340(注)2 その他 30(注)1、2
新株予約権の目的となる株式の種類、内容及び数(株)	普通株式 37,000(注)2
新株予約権の行使時の払込金額(円)	506(注)3
新株予約権の行使期間	2020年7月26日～2024年6月28日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 506 資本組入額 263
新株予約権の行使の条件	新株予約権1個当たりの一部行使はできないものとする。 新株予約権の割当てを受けたものは、権利行使時においても、当社の取締役若しくは従業員の地位にあることを要する。ただし、任期満了による退任、定年退職等その他正当な理由がある場合はこの限りではない。 その他の条件は、当社と新株予約権の割当てを受けたものとの間で締結した「新株予約権付与契約」で定めるところによる。
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡するときは、当社取締役会の決議による承認を要するものとする。
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注)4

決議年月日	2019年6月27日
付与対象者の区分及び人数(名)	当社取締役 10
新株予約権の数(個)	当社取締役 370(注)2
新株予約権の目的となる株式の種類、内容及び数(株)	普通株式 37,000(注)2
新株予約権の行使時の払込金額(円)	437(注)3
新株予約権の行使期間	2021年7月26日～2025年6月27日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 437 資本組入額 239
新株予約権の行使の条件	新株予約権1個当たりの一部行使はできないものとする。 新株予約権の割当てを受けたものは、権利行使時においても、当社の取締役若しくは従業員の地位にあることを要する。ただし、任期満了による退任、定年退職等その他正当な理由がある場合はこの限りではない。 その他の条件は、当社と新株予約権の割当てを受けたものとの間で締結した「新株予約権付与契約」で定めるところによる。
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡するときは、当社取締役会の決議による承認を要するものとする。
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注)4

決議年月日	2020年6月26日
付与対象者の区分及び人数(名)	当社取締役 10

当事業年度の末日(2020年3月31日)における内容を記載しております。なお、提出日の前月末(2020年5月31日)現在において、これらの事項に変更はありません。

- (注) 1 「その他」は、退任した取締役であります。
- 2 新株予約権 1 個につき目的となる株式数は、100株である。  
但し、新株予約権の割当日後、当社が株式分割、株式併合を行う場合は、次の算式により付与株式数を調整し、調整の結果生じる 1 株未満の端数は、これを切り捨てる。  
調整後株式数 = 調整前株式数 × 分割・併合の比率
- 3 新株予約権の割当日後、当社が株式分割、株式併合を行う場合は、次の算式により払込金額を調整し、調整により生ずる 1 円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後払込金額} = \text{調整前払込金額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

また、新株予約権の割当日後に時価を下回る価額で新株式の発行または自己株式の処分を行う場合は、次の算式により払込金額を調整し、調整により生ずる 1 円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後払込金額} = \text{調整前払込金額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新株発行(処分)株式数} \times \text{1株当たり払込金額}}{\text{1株当たり時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新株発行(処分)株式数}}$$

上記の他、割当日以降、払込金額の調整を必要とするやむを得ない事由が生じた場合は、合理的な範囲で払込金額を調整するものとする。

#### 4 組織再編成行為時の取扱い

当社が、合併（当社が合併により消滅する場合に限る。）、吸収分割、新設分割、株式交換又は株式移転（以上を総称して以下、「組織再編成行為」という。）をする場合において、組織再編成行為の効力発生の時点において残存する新株予約権（以下、「残存新株予約権」という。）の新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号イからホまでに掲げる株式会社（以下、「再編成対象会社」という。）の新株予約権を以下の条件に基づきそれぞれ交付することとする。この場合においては、残存新株予約権は消滅し、再編成対象会社は新株予約権を新たに発行するものとする。ただし、以下の条件に沿って再編成対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、新設分割計画、株式交換契約又は株式移転計画において定めた場合に限るものとする。

- (1) 交付する再編成対象会社の新株予約権の数  
残存新株予約権の新株予約権者が保有する新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付するものとする。
- (2) 新株予約権の目的である再編成対象会社の株式の種類  
再編成対象会社の普通株式とする。
- (3) 新株予約権の目的である再編成対象会社の株式の数  
組織再編成行為の条件等を勘案の上、決定する。
- (4) 新株予約権の行使に際して出資される財産の価額  
交付される各新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、払込金額を組織再編成行為の条件等を勘案の上調整して得られる再編成後払込金額に上記(3)に従って決定される当該新株予約権の目的である再編成対象会社の株式の数を乗じて得られる金額とする。
- (5) 新株予約権を行使することができる期間  
新株予約権の行使期間の開始日と組織再編成行為の効力発生日のうちいずれか遅い日から、新株予約権の行使期間の満了日までとする。
- (6) 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項  
組織再編成行為の条件等を勘案の上、決定する。
- (7) 譲渡による新株予約権の取得の制限  
譲渡による新株予約権の取得については、再編成対象会社の決議による承認を要するものとする。
- (8) 新株予約権の取得条項  
当社は、当社が消滅会社となる合併契約承認の議案が承認された場合、当社が分割会社となる分割契約又は分割計画承認の議案が承認された場合、及び当社が完全子会社となる株式交換契約承認の議案又は株式移転計画承認の議案が承認された場合、当社取締役会が別途定める日に無償で新株予約権を取得することができる。

#### 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

#### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。



(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
1991年3月24日(注)	2,000	14,000	802,000	1,402,000	800,000	825,348

(注) 第三者割当 発行価格801円 資本組入額401円  
主な割当先 埼栄不動産(株) 埼玉興業(株) 計2社

(5) 【所有者別状況】

2020年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満 株式の状況 (株)
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	8	12	44	9	2	1,329	1,404	
所有株式数 (単元)	-	14,785	8,071	59,751	2,756	24	54,596	139,983	1,700
所有株式数 の割合(%)	-	10.56	5.77	42.68	1.97	0.02	39.00	100.00	

(注) 自己株式653,886株は、「個人その他」に6,538単元、「単元未満株式の状況」に86株含まれております。

(6) 【大株主の状況】

2020年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
埼栄不動産株式会社	埼玉県川口市前川1丁目1番70号	2,183	16.36
飯塚元一	埼玉県川口市	1,427	10.69
株式会社埼玉りそな銀行	東京都江東区木場1丁目5番65号	666	4.99
大栄不動産株式会社	東京都中央区日本橋室町1丁目1番8号	664	4.97
むさし証券株式会社	埼玉県さいたま市大宮区桜木町4丁目333番地13号	645	4.83
株式会社安藤・間	東京都港区赤坂6丁目1番20号	525	3.93
有限会社エヌ・アイ	埼玉県川口市芝1丁目46番14号	500	3.74
株式会社ホテルサイボー	東京都中央区日本橋人形町3丁目3番16号	384	2.88
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	東京都新宿区西新宿1丁目26番1号	374	2.80
大成建設株式会社	東京都新宿区西新宿1丁目25番1号	351	2.62
計		7,721	57.85

(注) 1 上記のほか当社所有の自己株式653千株があります。

2 損害保険ジャパン日本興亜株式会社は、2020年4月1日に損害保険ジャパン株式会社に商号変更されております。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2020年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 653,800		
	(相互保有株式) 普通株式 283,400		
完全議決権株式(その他)	普通株式 13,061,100	130,611	
単元未満株式	普通株式 1,700		
発行済株式総数	14,000,000		
総株主の議決権		130,611	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式86株が含まれております。

【自己株式等】

2020年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) サイボー(株)	川口市前川1丁目1番70号	653,800	-	653,800	4.67
(相互保有株式) 埼玉興業(株)	川口市安行領根岸3152番地	283,400	-	283,400	2.02
計		937,200	-	937,200	6.69

## 2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 普通株式

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額 (千円)	株式数(株)	処分価額の総額 (千円)
引き受ける者の募集を行った 取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、会社分割に係る移転 を行った取得自己株式				
その他(新株予約権の権利行使)	12,000	5,574		
保有自己株式数	653,886		653,886	

- (注) 1 当期間におけるその他の株式数には、2020年6月1日から有価証券報告書提出日までの新株予約権の行使により交付した株式は含めておりません。
- 2 当期間における保有自己株式数には、2020年6月1日から有価証券報告書提出日までの新株予約権の行使により交付した株式、単元未満株式の買取りによる株式は含めておりません。

### 3 【配当政策】

当社は、株主の皆様へ報いる企業価値の向上を目指すことが大変重要であると考え、株主に対する利益還元につきましては、安定配当に配慮しながら継続的に増加するように努めることを基本方針としております。

当社の剰余金の配当は、中間配当及び期末配当の年2回を基本的な方針としております。配当の決定機関は、中間配当は取締役会、期末配当は株主総会であります。

当事業年度の剰余金の配当につきましては、上記方針に基づき1株当たり7円とし、中間配当金7円を合わせ年間14円としております。

内部留保資金につきましては収益性、成長性を見込める事業分野に引き続き投資していく所存であります。

なお、当社は中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

(注) 基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額(百万円)	1株当たり配当額(円)
2019年11月7日 取締役会決議	93	7
2020年6月26日 定時株主総会決議	93	7

## 4 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1) 【コーポレート・ガバナンスの概要】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、法令等の遵守や企業倫理の重要性を認識し、迅速な経営意思決定を行い、健全で透明性の高い経営を実現し株主価値を高めることを最重要課題としています。その実現のために、常により良い経営管理体制と開示システムの構築を目指しております。また、当社は、東京証券取引所が定めるコーポレートガバナンス・コードに賛同し、以下の基本方針に従い、経営の効率性と公正性・透明性の維持・向上に努めてまいります。

#### 基本方針

##### 1) 株主の権利・平等性の確保

当社は、株主の権利を尊重し、その権利が実質的に確保される適切な対応と有効に行使される環境の整備を行います。また、実質的な平等性を確保する観点から、法律等に従い適切に対応するとともに、少数株主や外国人株主を含む全ての株主に十分配慮した環境作りを推進します。

##### 2) 株主以外のステークホルダーとの適切な協働

当社は、会社の持続的な成長と中長期的な企業価値の創出が、株主、顧客、取引先、社員、債権者、地域社会をはじめとする様々なステークホルダーによるリソースの提供や貢献の結果であると認識し、これらのステークホルダーとの適切な協働に努めます。また、取締役会・経営陣は、これらステークホルダーの権利・立場や健全な事業活動倫理を尊重する企業文化・風土の醸成に向けてリーダーシップを発揮します。

##### 3) 適切な情報開示と透明性の確保

当社は、会社の財務状態・経営成績等の財務情報や、経営戦略・経営課題、リスクやガバナンスに係る情報等の非財務情報について、法令に基づく開示を適切に行うとともに、法令に基づく開示以外の情報提供にも主体的に取り組めます。また、そうした情報が、正確で利用者にとって分かりやすく、情報としての有用性の高いものとなるようにします。

##### 4) 取締役会等の責務

取締役会は、株主に対する受託者責任・説明責任を踏まえ、当社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を促し、収益力・資本効率等の改善を図るべく、以下の役割・責任を適切に果たします。

- ・企業戦略等の大きな方向性を示し、その実行を推進します。
- ・内部統制システムやリスク管理体制を整備することで、経営陣幹部によるリスクテイクを適切に支えます。
- ・独立した客観的な立場から、経営陣・取締役に対する実効性の高い監督を行います。

当社は、監査役会設置会社として、前項の役割・責務の一部は監査役および監査役会が担います。

##### 5) 株主との対話

当社は、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に資するため、株主總會の場以外においても、株主との間で建設的な対話を行います。代表取締役をはじめとした経営陣幹部によるIR活動を定期的実施し、株主や投資家に対する当社の経営戦略・経営計画の理解を深めるための機会創出に努めます。

#### 企業統治の体制の概要及び当該体制を採用する理由

取締役会は、取締役11名（うち社外取締役2名）で構成され、原則として月1回定時開催するほか、適宜開催し、当社の経営管理の意思決定機関として、会社法等が求める専決事項、その他重要事項、経営方針等に関する意思決定をするとともに、各取締役の職務の執行を監督しております。また、月1回、事業部長会を開催し、事業環境の分析、売上高、利益計画の進捗状況のモニタリング、情報の共有化及び法令等の遵守の徹底を図り、取締役会に付議すべき事項について事前協議ができる体制になっております。

当社は、監査役制度を採用しており、監査役会は監査役3名（うち社外監査役2名）で構成しています。当社の監査役は、監査機能を強化するため、企業法務や財務・会計に関する知見と豊富な経験に基づき、監査活動を行っております。監査役会は原則として月1回定時開催するほか、適宜開催し、各監査役は、監査役会が定めた監査方針・計画に従い、取締役会及びその他の重要な会議に出席するほか、各取締役や内部監査部門等から職務執行状況の聴取をし、重要な稟議書の閲覧を行い、さらに主要な事業所には自ら赴き、業務及び財産の状況を調査しております。

当社では、取締役会の任意の諮問機関として、取締役・監査役の指名及び報酬に関する意思決定等に独立社外取締役等の関与・助言の機会を適切に確保し、取締役会における意思決定プロセスの公平性、客観性及び透明性を向上させ、コーポレート・ガバナンス体制をより一層充実させることを目的とし、「指名・報酬諮問委員会」を設置しております。また、その役割は、主に下記の事項を審議し、取締役会（又は監査役会）に答申します。

- ・ 指名

取締役・監査役の選任及び解任（株主総会議案）に関する事項  
代表取締役及び役付取締役の選定及び解職に関する事項

・報酬

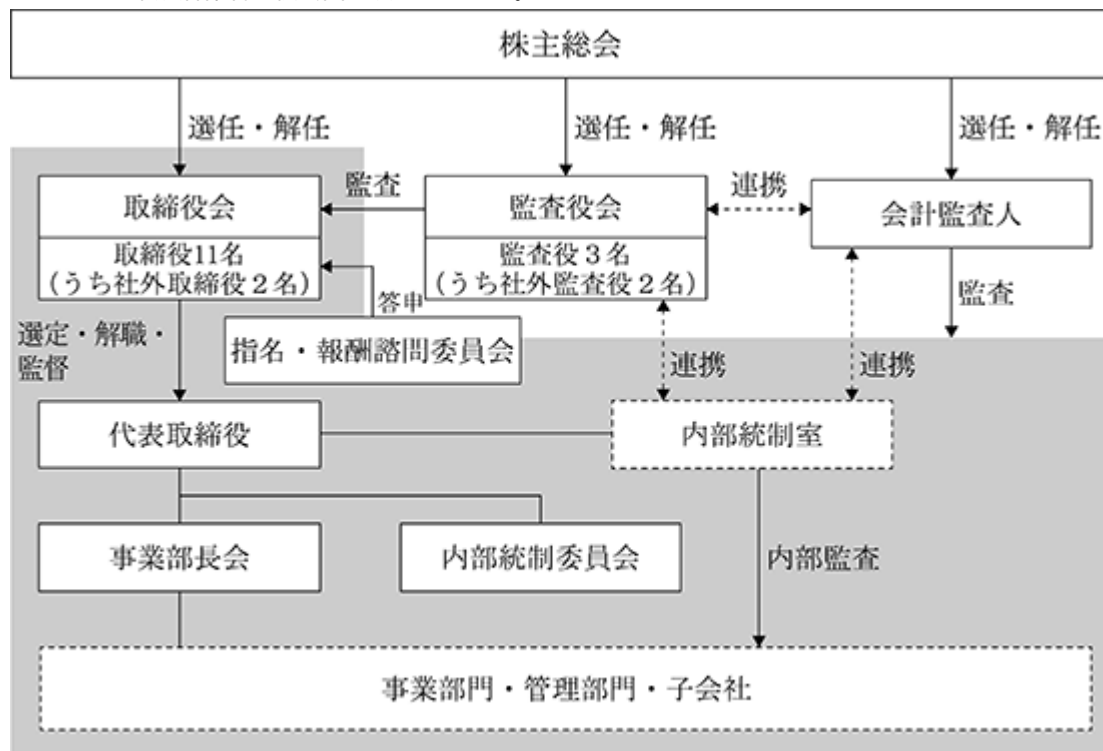
取締役・監査役の報酬限度額（株主総会議案）に関する事項  
取締役・監査役の報酬等に関する事項

「指名・報酬諮問委員会」は、3名以上の取締役・監査役で構成し、その半数以上を独立社外役員としております。当事業年度の委員長（議長）及び構成員は下記の通りです。

飯塚博文（議長：代表取締役会長）

飯塚剛司（代表取締役社長）、清水秀雄（独立社外取締役）、角谷勝彦（独立社外監査役）

企業統治体制の模式図は次の通りです。



以上の社外取締役2名及び社外監査役2名の選任並びに監査役による経営監視機能が有効に働くことにより、透明性、客観性、健全性が十分に確保された企業統治体制が確立できると考え、この体制を取っております。

企業統治に関するその他の事項

a. 内部統制システムの整備の状況

当社では、会社法に係る「業務の適正を確保するための体制」及び金融商品取引法に係る「財務報告の信頼性を確保するための体制」の整備・運用に対応するため、毎期、「内部統制対応基本計画書」を策定し、その推進体制を明確にするとともに、当期の方針として重点課題及び改善に取り組んでおります。また、その体制を推進する組織として、代表取締役社長を委員長とした「内部統制委員会」を設置し、内部統制の推進に必要な事項の協議、監査結果の報告、改善策の検討、改善状況の報告等を行っております。

代表取締役社長直轄の内部統制室（内部監査部門）は、毎期、「内部監査計画書」を策定し、内部統制システムの整備・運用状況を中心にモニタリングして監査結果及び是正案について内部統制委員会で報告しております。

コンプライアンス体制の構築に当たり、取締役を含む全社員が遵守すべき「企業倫理憲章」及び「コンプライアンス行動規範」は、子会社を含む主要な事業所でポスター掲示、グループ社員証への掲載及び規程類の社内イントラネットへの掲載により周知を図り、かつ全社員が集まる社内行事で定期的にコンプライアンス及びリスク管理に関する研修を開催し、必要に応じて階層別の研修も実施しております。また、不正行為等の早期発見を図り、コンプライアンス経営を強化することを目的とした内部通報制度であるヘルプラインは、内部統制室及び外部の顧問弁護士に対応窓口を設け、通報案件については「ヘルプライン規程」に基づく適正なプロセスで運営しております。

b. リスク管理体制の整備の状況

企業価値の向上と企業活動の持続的発展を阻害する不確実性要因を含むリスクに対応するため、当社は、社

内規程等の充実、諸会議の機動的運営等により、リスクに対する管理体制を整備し、重大なリスクが発生した場合には、代表取締役社長を含む全取締役が、そのリスク軽減に取り組み、全社を挙げて対応する体制を取っております。

c. 当社の子会社の業務の適正を確保するための体制整備の状況

当社は、子会社の経営に関わる基本事項に関して統括的に管理・指導を行う部署としてグループ会社管理課を設置し、「グループ会社管理規程」および「子会社管理規程」に基づき、事業内容の定期報告及び重要案件の事前協議の体制を構築しております。また、当該部門では、連結子会社連絡会議を四半期毎に開催し、子会社の経営状況及び事業計画の進捗管理を行っております。

責任限定契約の内容の概要

当社は、会社法第427条第1項に基づき、業務執行取締役等でない取締役及び監査役との間において、会社法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任限度額は、法令が定める額としております。なお、当該責任限定が認められるのは、当該業務執行取締役等でない取締役及び監査役が責任の原因となった職務の遂行について善意でかつ重大な過失がないときに限られます。

取締役会で決議できる株主総会決議事項

a. 自己株式の取得

当社は、自己株式の取得について、機動的な資本政策を遂行できるよう会社法第165条第2項の規定に基づき、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款で定めております。

b. 中間配当

当社は、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって、毎年9月30日を基準日として中間配当をすることができる旨を定款に定めております。これは株主への機動的な利益還元を行うためであります。

c. 取締役の責任免除

当社は、会社法第426条第1項の規定により、取締役会の決議によって、会社法第423条第1項に規定する取締役(取締役であった者を含む。)の損害賠償責任を法令に定める限度において免除することができる旨を定款に定めております。これは、取締役が職務を遂行するにあたり、期待される役割を十分に発揮できるようにするためであります。

d. 監査役の責任免除

当社は、会社法第426条第1項の規定により、取締役会の決議によって、会社法第423条第1項に規定する監査役(監査役であった者を含む。)の損害賠償責任を法令に定める限度において免除することができる旨を定款に定めております。これは、監査役が職務を遂行するにあたり、期待される役割を十分に発揮できるようにするためであります。

取締役の定数

当社の取締役は11名以内とする旨を定款で定めております。

取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨を定めております。また、取締役の選任決議は、累積投票によらない旨も定款に定めております。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。これは株主総会の特別決議の定足数確保をより確実にするためであります。

(2) 【役員の状況】

役員一覧

男性13名 女性1名 (役員のうち女性の比率7.1%)

役職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
取締役会長	飯塚博文	1933年8月22日生	1958年5月 1972年7月 1984年6月 1992年7月 1992年7月 1993年5月 2003年6月 2020年6月	当社入社 同 取締役労務次長就任 同 専務取締役就任 同 代表取締役社長就任 埼玉興業(株)代表取締役社長就任(現任) ネットヨタ東埼玉(株)取締役就任(現任) 当社代表取締役会長就任 同 取締役会長就任(現任)	(注) 4	210
代表取締役社長	飯塚剛司	1934年7月23日生	1959年8月 1974年5月 1984年6月 1992年7月 1992年7月 1993年5月 1997年6月 2001年6月 2003年6月	当社入社 同 取締役二次製品次長就任 同 常務取締役就任 同 専務取締役就任 (株)ホテルサイボー代表取締役社長就任(現任) 埼玉興業(株)常務取締役就任(現任) 当社代表取締役専務取締役就任 ネットヨタ東埼玉(株)取締役就任(現任) 当社代表取締役社長就任(現任)	(注) 3	294
代表取締役専務 繊維事業本部長 兼東京支店長	飯塚榮一	1951年8月29日生	1974年3月 2002年10月 2003年6月 2007年10月 2007年12月 2010年6月 2013年6月 2015年6月 2016年10月 2017年7月 2020年6月	当社入社 同 アパレル事業部事業部長就任 同 取締役アパレル事業部事業部長就任 同 取締役繊維事業副本部長営業第二・三グループ担当就任 埼玉不動産(株)取締役就任(現任) 当社常務取締役繊維事業本部長営業第二・三グループ担当就任 同 専務取締役繊維事業本部長営業第二・三グループ担当就任 同 専務取締役繊維事業本部長営業第一・二・三グループ担当就任 同 専務取締役繊維事業本部長兼アパレル部長兼東京支店長就任 同 専務取締役繊維事業本部長兼東京支店長就任 同 代表取締役専務繊維事業本部長兼東京支店長就任(現任)	(注) 4	168
常務取締役 不動産開発事業部長	飯塚将	1965年5月23日生	1999年2月 2011年7月 2013年6月 2019年6月	当社入社 同 不動産開発事業部長就任 同 取締役不動産開発事業部長就任 同 常務取締役不動産開発事業部長就任(現任)	(注) 3	22
常務取締役 総務部長	飯塚豊	1965年11月1日生	1993年3月 2011年7月 2013年6月 2014年6月 2016年12月 2019年6月 2019年7月	当社入社 同 東京支店支店長就任 同 取締役東京支店支店長就任 同 取締役東京支店支店長兼総務部担当就任 同 取締役総務部長兼ギフト事業部長就任 同 常務取締役総務部長兼ギフト事業部長就任 同 常務取締役総務部長就任(現任)	(注) 3	94



役職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
取締役	飯塚元一	1961年5月20日生	1992年12月 2001年12月 2007年6月 2011年12月	埼玉不動産㈱取締役就任 同 代表取締役専務就任 当社取締役就任(現任) 埼玉不動産㈱代表取締役社長 就任(現任)	(注)3	1,427
取締役 繊維事業本部 マテリアル部長	浅香祐司	1963年1月20日生	1985年3月 2011年7月 2016年7月 2017年6月 2019年3月	当社入社 同 繊維事業本部営業第三グ ループ部長就任 同 繊維事業本部マテリアル部 長就任 同 取締役繊維事業本部マテリ アル部長就任(現任) 日宇産業㈱代表取締役会長就任 (現任)	(注)3	1
取締役 財務部長	米澤幸男	1950年11月20日生	1969年3月 2014年3月 2015年11月 2019年4月 2019年6月	当社入社 フロリア㈱代表取締役社長就任 (現任) 当社財務部長代理就任 同 財務部長就任 同 取締役財務部長就任(現任)	(注)3	0
取締役 繊維事業本部 アパレル部長	伊藤素典	1958年12月13日生	2003年3月 2017年7月 2020年6月	当社入社 同 繊維事業本部アパレル部長 就任 同 取締役繊維事業本部アパレ ル部長就任(現任)	(注)4	0
取締役	西原京子	1956年11月24日生	1997年6月 2000年6月 2008年6月 2008年6月 2014年6月	日産証券㈱常勤監査役就任 同 取締役就任 同 顧問就任 当社取締役就任(現任) 日産証券㈱監査役就任	(注)4	
取締役	清水秀雄	1944年7月21日生	1970年3月 1973年1月 2003年6月 2016年6月	公認会計士登録(現在に至る) 税理士登録(現在に至る) 当社監査役就任 同 取締役就任(現任)	(注)4	
常勤監査役	村木徹	1958年4月12日生	2009年6月 2013年4月 2013年4月 2015年4月 2017年4月 2020年5月 2020年6月	㈱埼玉りそな銀行取締役兼常務 執行役員就任 ㈱りそな銀行専務執行役員就任 ㈱りそなホールディングス執行 役員就任 ジェイアンドエス保険サービス ㈱代表取締役社長就任 りそなビジネスサービス㈱代表 取締役社長就任 ㈱ピククルスコーポレーション 社外監査役就任(現任) 当社監査役就任(現任)	(注)5	
監査役	錦戸景一	1953年5月2日生	1985年4月 1994年1月 2005年6月	弁護士登録(現在に至る) 光和総合法律事務所パートナー (現任) 当社監査役就任(現任)	(注)5	
監査役	藤井孝男	1943年5月7日生	1966年3月 1999年6月 2003年6月 2010年6月 2017年11月 2020年6月	当社入社 同 取締役総務部長就任 同 常務取締役管理担当兼総 務部長就任 同 専務取締役管理本部長兼財 務部長就任 同 専務取締役管理本部長就任 同 監査役就任(現任)	(注)5	24
計						2,242

- (注) 1 監査役村木徹氏及び錦戸景一氏は、社外監査役であります。  
 2 取締役西原京子氏及び清水秀雄氏は、社外取締役であります。  
 3 取締役の任期は、2019年3月期に係る定時株主総会終結の時から2021年3月期に係る定時株主総会終結の時  
 までであります。  
 4 取締役の任期は、2020年3月期に係る定時株主総会終結の時から2022年3月期に係る定時株主総会終結の時  
 までであります。  
 5 監査役の任期は、2020年3月期に係る定時株主総会終結の時から2024年3月期に係る定時株主総会終結の時  
 までであります。  
 6 常務取締役飯塚将氏は取締役社長飯塚剛司氏の、常務取締役飯塚豊氏は取締役会長飯塚博文氏の子でありま  
 す。  
 7 当社は、法令に定める監査役の数に欠けることになる場合に備え、会社法第329条第3項に定める補欠監査  
 役1名を選任しております。補欠監査役の略歴は次のとおりであります。

氏名	生年月日	略歴		所有株式数 (千株)
角 谷 勝 彦	1945年12月24日生	1997年6月	(株)あさひ銀行(現(株)埼玉りそな銀行)常勤 監査役就任	1
		2002年6月	不二サッシ(株)代表取締役専務執行役員就 任	
		2008年6月	当社監査役就任	

#### 社外役員の状況

##### a. 社外取締役

当社は、社外取締役を2名選任しております。

社外取締役西原京子氏は、日産証券(株)の役員に就任していたことから、経営に関する豊富な知識、経験を有しており、社外取締役として適切な職務の執行及び役割を果たしていると考えております。同氏が2018年5月まで兼務していた日産証券(株)は当社の発行済株式の0.36%を所有しておりますが、主要株主でないことから重要性はないと判断しております。同社は、当社が所有する有価証券の一部を預け入れ、その売買に係る取引を行っておりますが、その金額は総資産に対して僅少であることから、当社は同社との間に人的関係、資本関係または取引関係その他の利害関係はないと判断しております。

社外取締役清水秀雄氏は、直接会社経営に関与したことはありませんが、公認会計士としての財務及び会計に精通し、高い見識と幅広い経験を有しており、これまでの当社の社外監査役としての経験をもとに、独立・公正な立場で経営監督機能を果たせると考えております。同氏は、清水公認会計士事務所を設立し勤務しておりますが、当社は同事務所との間に人的関係、資本関係または取引関係その他の利害関係はないと判断しております。

##### b. 社外監査役

当社は、社外監査役を2名選任しております。

社外監査役村木徹氏は、会社役員として培われた知識と経験等を当社の監査体制に活かしていると考えております。当社は同氏が兼務先の(株)ピクルスコーポレーションとの間に人的関係、資本関係または取引関係その他の利害関係はないと判断しております。

社外監査役錦戸景一氏は、弁護士としての専門的な見識を当社の監査体制に活かしていると考えております。同氏は、光和総合法律事務所に勤務しており、当社は同事務所との間に顧問契約を結んでおりますが、その金額は販売費及び一般管理費に対して僅少であることから、重要性はないと判断しております。また、当社は同事務所との間には人的関係、資本関係または取引関係その他の利害関係はないと判断しております。

c. 社外役員の独立性に関する基準又は方針

当社は、社外取締役候補者及び社外監査役候補者の選任にあたり、人的関係、資金的関係及び取引の有無などを十分に考慮し、独立的な立場で業務の執行及び経営に対する監視、監督機能が高められる人材を選任するため、会社法で規定する役員の社外性要件及び東京証券取引所の定める独立性要件を充たした「社外役員の選任および独立性に関する基準」を定め、当社ホームページに掲載しております。

(<https://www.saibo.co.jp/>)

当社の社外取締役及び社外監査役のいずれもが当該基準を充たしており、社外性及び独立性は十分に確保されていると判断し、選任しております。また、社外取締役西原京子氏及び社外監査役村木徹氏の2名は、東京証券取引所の独立役員として届け出ております。

社外取締役又は社外監査役による監督又は監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

社外取締役は、取締役会の出席等を通じて監査役監査、会計監査及び内部監査の報告を受け、必要に応じて意見を述べることにより、取締役の職務執行に対する監督機能を果たしております。また、内部統制システムを有効に機能させるための意見又は助言により、内部統制部門（内部統制室等）の適正な業務執行の体制の確保に努めております。

社外監査役は、監査役会及び取締役会への出席、並びに会計監査人及び内部監査部門（内部統制室）との定期会合等を通じて、直接又は間接的に会計監査及び内部監査の報告を受け、必要に応じて意見を述べることにより、監査の実効性を高めております。

## (3) 【監査の状況】

## 監査役監査の状況

当社における監査役会は、監査役3名（うち社外監査役2名）からなり、適切な経験・能力及び必要な財務・会計・法律に関する知識を有する者が選任されております。また監査役会では、取締役の職務執行並びに当社及びグループ会社の業務及び財産の状況を監査しております。なお、監査役会は、監査役の職務を補助するため、社長室と兼務する補助使用人を1名選任しており、当該使用人の任命や異動等については、常勤監査役の同意が必要であり、補助使用人の補助業務に関して取締役の指揮命令は受けない旨を「監査役監査基準」等に明記しております。

当事業年度において当社は監査役会を14回開催しており、個々の監査役の出席状況については次のとおりであります。

役職名	氏名	出席状況
常勤監査役（社外）	角谷 勝彦	14回
非常勤監査役（社外）	錦戸 景一	14回
非常勤監査役（社外）	浅子 正明	14回

常勤監査役の活動としては、年間の監査計画に基づき、社内及びグループ会社に対して営業報告の聴取を実施するとともに、取締役会その他重要な会議への出席、重要な決裁書類等の閲覧、内部統制室及び会計監査人との情報交換等を実施しております。

監査役会としては、常勤監査役からの活動報告を受けるとともに代表取締役・社外取締役・会計監査人との意見交換会を実施しております。

また、監査役会の主な検討事項は、監査役監査方針・監査計画・職務分担の策定、常勤監査役並びに特定監査役の選任、会計監査人の評価及び再任・不再任、会計監査人の報酬に対する同意、株主総会付議議案、監査報告の作成等についてであります。

## 内部監査の状況

当社は、内部監査の組織として代表取締役社長直轄の内部統制室を設置しております。

内部統制室は、3名の室員を配置し、内部監査規程に基づき計画的に社内の業務監査を行っており、内部監査報告書をもって代表取締役社長に報告しております。内部統制室は、当社グループの各社の組織、制度、業務等が、経営方針、各種法令及び諸規程に準拠し、効率的に運用されているかを検証、評価及び助言することにより、不正や誤謬の防止、正確な管理情報伝達、資金の保全、業務活動の改善向上等を図り、経営効率の増進に資することを使命としております。

内部統制室、監査役（会）及び会計監査人は、定期的に合同会合を開催し、または個別開催により監査計画、監査結果等の意見交換を行い、三様監査の相互連携を図っております。

会計監査の状況

- a. 監査法人の名称  
有限責任監査法人トーマツ
- b. 継続監査期間  
34年間
- c. 業務を執行した公認会計士  
指定有限責任社員 業務執行社員： 高橋 正伸、渡邊 康一郎
- d. 監査業務に係る補助使用人の構成  
当社の監査業務に係る補助者は、公認会計士5名、公認会計士試験合格者等3名、その他7名であります。監査証明の審査体制は、監査業務を含めた全ての意見表明業務に審査担当社員を指名し、業務に直接関与するメンバーとは独立した立場から客観的な視点で業務の審査を行っております。
- e. 監査法人の選定方法と理由  
会計監査人の選定につきましては、その専門性、独立性及び適正性を有し、当社の会計監査が適正かつ妥当に行われることを確保する体制を備えていることを基本方針としています。  
また、会計監査人の解任につきましては、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定めるいずれかに該当した場合、又は会計監査人の職務遂行の状況、監査の品質等を総合的に判断し決定します。
- f. 監査役及び監査役会による監査法人の評価  
監査役会で策定した評価基準に基づき毎期、評価を行っております。評価基準は、会計監査人の品質管理、独立性や専門性のほか、監査役や経営者とのコミュニケーションの状況等を総合的に判断して評価しております。

監査報酬の内容等

- a. 監査公認会計士等に対する報酬

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	35		35	
連結子会社				
計	35		35	

- b. 監査公認会計士等と同一のネットワークに対する報酬  
該当事項はありません。
- c. その他重要な監査証明業務に基づく報酬の内容  
該当事項はありません。
- d. 監査報酬の決定方針  
該当事項はありません。
- e. 監査役会が会計監査人の報酬等に同意した理由  
監査役会は、日本監査役協会が公表する「会計監査人との連携に関する実務指針」を踏まえ、会計監査人による当連結会計年度監査計画の内容、監査時間及び報酬見積り等の妥当性を検討した結果、会計監査人の報酬等について会社法第399条第1項の同意を行っております。

(4) 【役員の報酬等】

役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針に係る事項

当社では役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針は定めておりません。役員報酬の決定方法については、株主総会決議により取締役及び監査役それぞれの報酬等の限度額を決定しております。報酬額は、取締役については取締役会の授権を受けた代表取締役が、代表権の有無、役職、業績、社会水準等を総合的に勘案し決定しております。また、監査役については固定報酬とし、株主総会の決議により定められた報酬総額の限度額の範囲内で、各監査役が常勤・非常勤の別、役割、社会水準等を総合的に勘案し協議により決定しております。役員退職慰労金については、「役員退職慰労金規程」に基づいて決定しております。

なお、当事業年度より、取締役及び監査役の個別報酬については、それぞれの試案に基づき、社外役員が半数以上を占める任意の諮問委員会（指名・報酬諮問委員会）を設置し、十分な審議のうえで、それぞれ取締役会及び監査役会に答申しております。

当社の取締役の報酬等に関する株主総会の決議年月日は2019年6月27日であり、決議の内容は、年額報酬額を2億200万円以内（うち社外取締役分は年額300万円以内）及びかかる年額報酬額とは別にストックオプションによる報酬等の額として各事業年度につき200万円以内であります。なお、取締役の報酬額には、従来どおり使用人兼務取締役の使用人分給与は含まないものとします。また取締役の員数は11名（うち社外取締役2名）であります。

当社の監査役の報酬等に関する株主総会の決議年月日は2008年6月27日であり、決議の内容は、年額報酬額を300万円以内であります。また監査役の員数は3名（うち社外監査役2名）であります。

当事業年度における当社の役員の報酬等の額の決定過程における取締役会の活動は、各取締役の支給額を代表取締役に一任する議案を決議しております。また、監査役については、監査役会に報酬額を上程し、協議の上、決議しております。

役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員の区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額（千円）			対象となる 役員の員数 (名)
		固定報酬	業績連動報酬	退職慰労金等	
取締役 (社外取締役を除く)	182,876	172,991		9,885	10
社外役員	33,747	32,033		1,714	5

- (注) 1. 取締役の報酬等の額には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まれていません。  
 2. 役員退職慰労金等には、ストックオプションとして付与した新株予約権に係る費用が含まれております。  
 3. 上記のほか、2019年6月27日開催の定時株主総会の決議に基づく役員退職慰労金の額は、取締役1名 6百万であります。なお、当事業年度以前において、記載済みの役員退職慰労金繰入額を除いております。

役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

(5) 【株式の保有状況】

投資株式の区分の基準及び考え方

当社は、主に株式の価値の変動又は株式に係る配当によって利益を受けることを目的として保有している投資株式を純投資目的としております。それ以外の保有目的の株式を純投資目的以外としており、主に良好な取引関係の維持発展、並びに安定的かつ継続的な金融取引関係の維持等を目的とした政策保有株式があります。

保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

a. 保有方針及び保有の合理性を検証する方法並びに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容

当社は、保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式については、そのリターンとリスク等を踏まえた中長期的な観点から、これを反映した保有の意義、経済合理性について、取締役会で定期的に検証を行い、保有継続の是非を判断しております。また、保有する意義が希薄化した株式は、適宜縮減していく方針です。

この検証にあたっては、個別銘柄ごとに、取引状況を踏まえた事業上のメリット及び株式の市場価値、配当収益等を当社の資本コストと比較検証するとともに、企業価値の向上に資する市場や地域経済等の情報共有状況等を取締役会で総合的に検証することで、保有の判断をしております。

b. 銘柄数及び貸借対照表計上額

	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額(千円)
非上場株式	4	685,579
非上場株式以外の株式	3	531,751

c. 特定投資株式及びみなし保有株式の銘柄ごとの株式数、貸借対照表計上額等に関する情報

特定投資株式

銘柄	当事業年度		前事業年度		保有目的、定量的な保有効果	当社の株式の保有の有無
	株式数(株)	株式数(株)	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表計上額 (千円)	貸借対照表計上額 (千円)	貸借対照表計上額 (千円)	貸借対照表計上額 (千円)		
AGS(株)	300,000	300,000	300,000	300,000	(注)	有
	240,300	219,000	219,000	219,000		
(株)りそなホールディングス	538,700	538,700	538,700	538,700	(注)	有
	175,185	258,414	258,414	258,414		
(株)ムロコーポレーション	122,000	122,000	122,000	122,000	(注)	有
	116,266	194,956	194,956	194,956		

(注) 相手先との取引上の守秘義務等の観点から定量的な記載は困難であります。なお、保有の合理性の検証については「a. 保有方針及び保有の合理性を検証する方法並びに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容」に記載のとおりであります。保有目的については、取引強化のため相互保有しております。

保有目的が純投資目的である投資株式

区分	当事業年度		前事業年度	
	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の合計額 (千円)	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の合計額 (千円)
非上場株式	6	31,398	7	31,898
非上場株式以外の株式	21	385,899	23	559,454

区分	当事業年度		
	受取配当金の合計額(千円)	売却損益の合計額(千円)	評価損益の合計額(千円)
非上場株式	852		
非上場株式以外の株式	16,267	1,779	80,237

## 第5 【経理の状況】

### 1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(2019年4月1日から2020年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(2019年4月1日から2020年3月31日まで)の財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより監査を受けております。

### 3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、以下のとおり連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。

公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、同法人主催の研修等へ参加することにより、会計基準等の内容を適切に把握し、又は会計基準等の変更等についての確に対応しております。



1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,039,631	1,818,024
受取手形及び売掛金	3 1,149,892	979,880
有価証券	-	99,990
商品及び製品	1,132,870	1,042,157
仕掛品	10,986	11,961
原材料及び貯蔵品	33,883	32,727
その他	415,082	341,634
貸倒引当金	2,923	5,024
流動資産合計	4,779,423	4,321,351
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	2 19,801,684	2 20,780,601
減価償却累計額	11,305,130	11,302,086
建物及び構築物（純額）	8,496,554	9,478,515
機械装置及び運搬具	66,357	66,034
減価償却累計額	59,646	61,448
機械装置及び運搬具（純額）	6,711	4,585
工具、器具及び備品	549,132	534,437
減価償却累計額	295,943	335,827
工具、器具及び備品（純額）	253,188	198,609
土地	2 7,295,223	2 7,462,378
リース資産	18,044	115,730
減価償却累計額	12,231	3,290
リース資産（純額）	5,812	112,439
建設仮勘定	321,608	1,310,212
有形固定資産合計	16,379,100	18,566,742
無形固定資産	33,790	24,425
投資その他の資産		
投資有価証券	1 4,388,271	1 3,672,718
繰延税金資産	500,547	516,332
その他	243,541	319,458
貸倒引当金	34,011	69,531
投資その他の資産合計	5,098,349	4,438,977
固定資産合計	21,511,240	23,030,144
資産合計	26,290,663	27,351,496

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形及び買掛金	3 706,647	469,612
短期借入金	50,000	50,000
1年内返済予定の長期借入金	2 493,684	2 811,450
未払法人税等	849	12,448
賞与引当金	53,661	53,958
役員賞与引当金	6,350	6,350
資産除去債務	451,141	-
1年内返還予定の預り保証金	2 507,639	-
その他	2 272,938	215,906
流動負債合計	2,542,912	1,619,726
<b>固定負債</b>		
長期借入金	2 1,302,258	2 3,669,214
役員退職慰労引当金	259,752	252,838
退職給付に係る負債	168,882	184,164
長期預り保証金	2 5,468,589	2 5,494,917
資産除去債務	346,394	358,075
その他	88,603	190,412
固定負債合計	7,634,479	10,149,622
負債合計	10,177,392	11,769,349
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	1,402,000	1,402,000
資本剰余金	871,061	872,299
利益剰余金	11,739,863	11,491,892
自己株式	494,970	489,395
株主資本合計	13,517,955	13,276,796
<b>その他の包括利益累計額</b>		
その他有価証券評価差額金	618,302	350,782
退職給付に係る調整累計額	69,266	66,078
その他の包括利益累計額合計	549,035	284,703
新株予約権	7,335	6,265
非支配株主持分	2,038,945	2,014,381
純資産合計	16,113,271	15,582,147
負債純資産合計	26,290,663	27,351,496

## 【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

## 【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 2019年 4月 1日 至 2020年 3月 31日)
売上高	8,438,524	7,601,074
売上原価	1 7,033,156	1 5,501,016
売上総利益	1,405,368	2,100,057
販売費及び一般管理費	2 1,497,064	2 1,383,761
営業利益又は営業損失( )	91,695	716,295
営業外収益		
受取利息	3,769	1,948
受取配当金	77,917	90,324
持分法による投資利益	19,072	2,147
その他	85,914	32,354
営業外収益合計	186,674	126,775
営業外費用		
支払利息	31,346	25,543
有価証券売却損	3,501	16,685
固定資産除却損	12,201	51,017
貸倒引当金繰入額	7,314	27,709
その他	6,329	10,216
営業外費用合計	60,692	131,172
経常利益	34,286	711,898
特別利益		
新株予約権戻入益	-	1,408
特別利益合計	-	1,408
特別損失		
固定資産除却損	3 50,000	3 664,610
投資有価証券評価損	10,696	13,015
特別損失合計	60,696	677,626
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失( )	26,410	35,679
法人税、住民税及び事業税	13,200	19,956
法人税等調整額	6,996	99,719
法人税等合計	6,203	119,676
当期純損失( )	32,614	83,996
非支配株主に帰属する当期純利益又は非支配株主に帰属する当期純損失( )	46,771	18,805
親会社株主に帰属する当期純損失( )	79,385	65,190

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 2019年 4月 1日 至 2020年 3月 31日)
当期純損失( )	32,614	83,996
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	132,100	262,902
持分法適用会社に対する持分相当額	36,675	4,455
その他の包括利益合計	168,776	267,357
包括利益	201,390	351,354
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	242,617	329,522
非支配株主に係る包括利益	41,226	21,831

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,402,000	870,956	12,041,071	496,828	13,817,198
当期変動額					
剰余金の配当			221,822		221,822
親会社株主に帰属する当期純損失( )			79,385		79,385
自己株式の処分		105		1,858	1,964
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	-	105	301,207	1,858	299,243
当期末残高	1,402,000	871,061	11,739,863	494,970	13,517,955

	その他の包括利益累計額			新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計			
当期首残高	750,152	37,884	712,267	6,595	2,000,450	16,536,512
当期変動額						
剰余金の配当						221,822
親会社株主に帰属する当期純損失( )						79,385
自己株式の処分						1,964
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	131,849	31,382	163,231	739	38,494	123,997
当期変動額合計	131,849	31,382	163,231	739	38,494	423,240
当期末残高	618,302	69,266	549,035	7,335	2,038,945	16,113,271

当連結会計年度(自 2019年 4月 1日 至 2020年 3月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,402,000	871,061	11,739,863	494,970	13,517,955
当期変動額					
剰余金の配当			182,779		182,779
親会社株主に帰属する当期純損失( )			65,190		65,190
自己株式の処分		1,237		5,574	6,812
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	-	1,237	247,970	5,574	241,158
当期末残高	1,402,000	872,299	11,491,892	489,395	13,276,796

	その他の包括利益累計額			新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計			
当期首残高	618,302	69,266	549,035	7,335	2,038,945	16,113,271
当期変動額						
剰余金の配当						182,779
親会社株主に帰属する当期純損失( )						65,190
自己株式の処分						6,812
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	267,520	3,188	264,331	1,070	24,563	289,965
当期変動額合計	267,520	3,188	264,331	1,070	24,563	531,124
当期末残高	350,782	66,078	284,703	6,265	2,014,381	15,582,147

## 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失( )	26,410	35,679
減価償却費	1,551,801	610,026
貸倒引当金の増減額( は減少)	10,449	37,621
賞与引当金の増減額( は減少)	5,957	296
退職給付に係る負債の増減額( は減少)	8,551	15,282
役員退職慰労引当金の増減額( は減少)	15,784	6,914
受取利息及び受取配当金	81,687	92,272
支払利息	31,346	25,543
持分法による投資損益( は益)	19,072	2,147
有形固定資産売却損益( は益)	636	-
固定資産除却損	62,201	715,627
投資有価証券評価損益( は益)	10,696	13,015
売上債権の増減額( は増加)	188,353	162,434
たな卸資産の増減額( は増加)	60,065	90,893
仕入債務の増減額( は減少)	128,942	237,035
預り保証金の増減額( は減少)	634,705	481,311
その他	55,137	295,418
小計	867,875	591,322
利息及び配当金の受取額	82,623	95,000
利息の支払額	31,346	25,543
法人税等の支払額又は還付額( は支払)	134,901	77,236
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>784,251</b>	<b>738,015</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有価証券の売却による収入	49,728	-
有形固定資産の取得による支出	622,968	2,670,369
固定資産の除却による支出	202,696	1,010,702
有形固定資産の売却による収入	1,012	-
投資有価証券の取得による支出	60,384	157,609
投資有価証券の売却による収入	101,319	362,450
定期預金の増減額( は増加)	2,989	3,210
貸付けによる支出	700	1,200
貸付金の回収による収入	5,880	5,390
その他	147,058	31,540
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>578,762</b>	<b>3,443,711</b>

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 2019年 4月 1日 至 2020年 3月 31日)
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入れによる収入	720,000	580,000
短期借入金の返済による支出	720,000	580,000
長期借入れによる収入	-	3,300,000
長期借入金の返済による支出	536,136	615,278
配当金の支払額	221,822	182,779
非支配株主への配当金の支払額	2,732	2,732
ストックオプションの行使による収入	1,848	6,114
その他	99,106	24,446
財務活動によるキャッシュ・フロー	857,948	2,480,877
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	0
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	652,459	224,818
現金及び現金同等物の期首残高	2,434,695	1,782,235
現金及び現金同等物の期末残高	1 1,782,235	1 1,557,417



【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 3社

連結子会社の名称

神根サイボー(株)

埼玉興業(株)

フロリア(株)

(2) 非連結子会社の名称等

非連結子会社の名称

日宇産業(株)

(連結の範囲から除いた理由)

非連結子会社は小規模であり、総資産、売上高、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないためであります。

2 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法適用の関連会社数 1社

持分法適用の関連会社の名称

ネットヨタ東埼玉(株)

(2) 持分法を適用しない理由

持分法を適用していない非連結子会社(日宇産業(株))及び関連会社(株)NTワークスは、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体として重要性がないため、持分法の適用範囲から除外しております。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち神根サイボー(株)の決算日は2020年2月29日であります。

連結財務諸表の作成にあたっては、同日現在の財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

4 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

満期保有目的の債券 償却原価法(定額法)

その他有価証券

時価のあるもの 決算期末日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの 移動平均法による原価法

#### たな卸資産

通常の販売目的で保有するたな卸資産

評価基準は原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）

製品、商品、原材料、仕掛品

主として移動平均法

貯蔵品

主として最終仕入原価法

デリバティブ取引により生ずる債権及び債務

デリバティブ

時価法

#### (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産（リース資産を除く）

定率法によっております。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(附属設備を除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法によっております。

なお、主な耐用年数は、次のとおりであります。

建物及び構築物 10～39年

機械装置及び運搬具 2～14年

無形固定資産(リース資産を除く)

定額法によっております。

なお、償却年数については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。

リース資産

所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法によっております。

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとして算定する定額法によっております。

#### (3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率法により、貸倒懸念債権及び破産更生債権等については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、将来の支給見込額のうち、当連結会計年度の負担額を計上しております。

役員賞与引当金

役員に対して支給する賞与の支出に充てるため、当連結会計年度末における支給見込額に基づき、当連結会計年度に見合う額を計上しております。

役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に充てるため、内規に基づく当連結会計年度末要支給額を計上しております。

#### (4) 退職給付に係る会計処理の方法

当社及び連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職一時金制度については、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を採用しております。

また、持分法適用の関連会社であるネットトヨタ東埼玉(株)は、原則法を採用しており、当社持分に見合う額を退職給付に係る調整累計額に計上しております。

#### (5) 重要な収益及び費用の計上基準

ファイナンス・リース取引に係る収益の計上基準

リース料受取時に売上高と売上原価を計上する方法によっております。また、転リース取引については、リース料受取時に転リース差益を営業外収益に計上する方法によっております。

(6) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、期末決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

(7) 重要なヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法

為替予約については、振当処理の要件を満たす場合には振当処理を採用しており、当連結会計年度末における予定取引に該当する取引をヘッジ対象とする為替予約については、繰延ヘッジ処理を採用しております。

また、金利スワップについては、特例処理の要件を満たす場合には特例処理を採用しております。

ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段

デリバティブ取引(為替予約取引及び金利スワップ取引)

ヘッジ対象

外貨建予定仕入取引・借入金

ヘッジ方針

外貨建取引について、その取引時に為替予約により円貨額を確定させ、為替リスクについてヘッジすることを原則としております。

また、借入金の金利変動リスクを回避する目的で金利スワップ取引を行っております。

ヘッジの有効性評価の方法

ヘッジ手段の変動額の累計額とヘッジ対象の変動額の累計額を比較して有効性を判断しておりますが、ヘッジ手段とヘッジ対象に関する重要な条件が同一である場合は、ヘッジ効果が極めて高いことから、ヘッジの有効性の評価は省略しております。

(8) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、要求払預金及び取得日から3ヶ月以内に満期日の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない短期的な投資であります。

(9) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理方法

税抜方式を採用しております。控除対象外消費税等は、当連結会計年度の期間費用としております。

(未適用の会計基準等)

- ・「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 2020年3月31日)

(1) 概要

収益認識に関する包括的な会計基準であります。収益は、次の5つのステップを適用し認識されます。

ステップ1：顧客との契約を識別する。

ステップ2：契約における履行義務を識別する。

ステップ3：取引価格を算定する。

ステップ4：契約における履行義務に取引価格を配分する。

ステップ5：履行義務を充足した時に又は充足するにつれて収益を認識する。

(2) 適用予定日

2022年3月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中であります。

(表示方法の変更)

(連結損益計算書関係)

前連結会計年度において、独立掲記しておりました「営業外収益」の「補助金収入」は、重要性が乏しくなったため、当連結会計年度より「その他」に含めて表示しております。また、前連結会計年度において、「営業外費用」の「その他」に含めていた「有価証券売却損」は重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記することとしております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「営業外収益」の「補助金収入」40,632千円、「その他」45,282千円及び、「営業外費用」の「その他」9,830千円は、それぞれ「営業外収益」の「その他」85,914千円、「営業外費用」の「有価証券売却損」3,501千円及び「その他」6,329千円として組み替えております。

(追加情報)

(会計上の見積り)

新型コロナウイルス感染症の影響については、今後の広がり方や収束時期等についての統一的な見解がなく、今後の経済活動正常化のタイミング及び当社グループにおける業績への影響を見通すことは極めて困難であります。当社グループでは、現在の状況、入手可能な情報に基づき、合理的であると考えられる最善の見積りを行う上での一定の仮定として、見積りが必要と判断したゴルフ練習場事業では、2020年10月以降に前年並みに売上が回復するものとし、繰延税金資産の回収可能性に関する判断を行っております。

(連結貸借対照表関係)

1 非連結子会社及び関連会社に対するものは次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
投資有価証券(株式)	756,455千円	751,420千円

2 担保に供している資産及び担保付債務は以下のとおりであります。

担保に供している資産

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
建物及び構築物	5,511,335千円	5,354,263千円
土地	1,904,103千円	2,031,110千円
合計	7,415,438千円	7,385,373千円

担保付債務

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
1年内返済予定の長期借入金	460,884千円	777,850千円
1年内返還予定の預り保証金	490,000千円	千円
前受収益 (流動負債の「その他」)	7,644千円	千円
長期借入金	1,302,258千円	3,602,814千円
長期預り保証金	2,933,572千円	2,940,000千円
合計	5,194,358千円	7,320,664千円

3 期末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形が、期末残高に含まれておりません。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
受取手形	11,011千円	千円
支払手形	81,299千円	千円

4 当社及び一部の連結子会社においては、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行4行と当座貸越契約及び貸出コミットメント契約を締結しております。

連結会計年度末における当座貸越契約及び貸出コミットメントに係る借入未実行残高等は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
当座貸越極度額 及び貸出コミットメントの総額	1,200,000千円	1,200,000千円
借入実行残高	千円	千円
差引額	1,200,000千円	1,200,000千円

(連結損益計算書関係)

- 1 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれており  
ます。

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
	58,285千円	22,411千円

- 2 販売費及び一般管理費のうち主要な費用及び金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
役員報酬	215,619千円	218,944千円
給料手当	494,536千円	424,291千円
賞与引当金繰入額	44,592千円	43,484千円
役員賞与引当金繰入額	6,350千円	6,350千円
退職給付費用	33,560千円	30,439千円
役員退職慰労引当金繰入額	16,024千円	14,741千円
貸倒引当金繰入額	3,135千円	9,911千円

- 3 固定資産除却損

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

当連結会計年度の計上額50,000千円は、主にイオンモール川口の解体撤去の一部が完了したことによるものであります。

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

当連結会計年度の計上額664,610千円は、イオンモール川口の解体撤去が完了したことによるものであります。

(連結包括利益計算書関係)

その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	238,543千円	386,756千円
組替調整額	3,501千円	8,348千円
税効果調整前	235,042千円	378,407千円
税効果額	102,941千円	115,504千円
その他有価証券評価差額金	132,100千円	262,902千円
持分法適用会社に対する 持分相当額		
当期発生額	36,675千円	4,455千円
その他の包括利益合計	168,776千円	267,357千円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	14,000,000			14,000,000

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	816,007		4,000	812,007

(変動事由の概要)

普通株式の減少数の主な内訳は、次のとおりであります。

ストック・オプションの権利行使による減少 4,000株

3 新株予約権等に関する事項

会社名	内訳	当連結会計年度末残高(千円)
提出会社	2013年新株予約権	2,048
提出会社	2014年新株予約権	2,196
提出会社	2015年新株予約権	1,080
提出会社	2016年新株予約権	957
提出会社	2017年新株予約権	777
提出会社	2018年新株予約権	277
合計		7,335

(注) 1 2017年及び2018年新株予約権は、ストック・オプションとして発行されたもので、権利行使期間の初日が到来していません。

2 当連結会計年度に増加及び減少する株式の数は、新株予約権が行使されたものと仮定した場合の増加株式数の、連結会計年度末の発行済株式総数に対する割合に重要性が乏しいため、記載を省略しております。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
2018年6月28日 定時株主総会	普通株式	130,467	10	2018年3月31日	2018年6月29日
2018年11月9日 取締役会	普通株式	91,354	7	2018年9月30日	2018年12月6日

(注) 2018年6月28日定時株主総会決議による1株当たり配当額には創立70周年記念配当3円が含まれております。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
2019年6月27日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	91,354	7	2019年3月31日	2019年6月28日



当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	14,000,000			14,000,000

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	812,007		12,000	800,007

(変動事由の概要)

普通株式の減少数の主な内訳は、次のとおりであります。

ストック・オプションの権利行使による減少 12,000株

3 新株予約権等に関する事項

会社名	内訳	当連結会計年度末残高(千円)
提出会社	2014年新株予約権	2,196
提出会社	2015年新株予約権	1,080
提出会社	2016年新株予約権	899
提出会社	2017年新株予約権	888
提出会社	2018年新株予約権	647
提出会社	2019年新株予約権	555
合計		6,265

(注) 1 2018年及び2019年新株予約権は、ストック・オプションとして発行されたもので、権利行使期間の初日が到来しておりません。

2 当連結会計年度に増加及び減少する株式の数は、新株予約権が行使されたものと仮定した場合の増加株式数の、連結会計年度末の発行済株式総数に対する割合に重要性が乏しいため、記載を省略しております。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
2019年6月27日 定時株主総会	普通株式	91,354	7	2019年3月31日	2019年6月28日
2019年11月7日 取締役会	普通株式	91,424	7	2019年9月30日	2019年12月6日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
2020年6月26日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	91,438	7	2020年3月31日	2020年6月29日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

- 1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
現金及び預金勘定	2,039,631千円	1,818,024千円
有価証券勘定	千円	99,990千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	257,396千円	260,606千円
償還期間が3ヶ月を超える債券等	千円	99,990千円
現金及び現金同等物	1,782,235千円	1,557,417千円

- 2 重要な非資金取引の内容

重要な資産除去債務の計上額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
重要な資産除去債務の計上額	千円	8,235千円

(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引

(借主側)

(1) リース資産の内容

・有形固定資産

主として、社用車及び糸糊付加工設備(機械装置及び運搬具)であります。

(2) リース資産の減価償却の方法

・所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとして算定する定額法によっております。

(貸主側)

(1) リース投資資産の内訳

流動資産

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
リース料債権部分	29,263千円	9,614千円
見積残存価額部分	千円	千円
受取利息相当額	6,495千円	4,917千円
リース投資資産	22,767千円	4,697千円

投資その他の資産

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
リース料債権部分	73,234千円	74,947千円
見積残存価額部分	5,101千円	5,101千円
受取利息相当額	49,799千円	46,298千円
リース投資資産	28,536千円	33,751千円

(2) リース投資資産に係るリース料債権部分の連結会計年度末日後の回収予定額

流動資産

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)					
	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
リース投資資産	29,263					

(単位：千円)

	当連結会計年度 (2020年3月31日)					
	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
リース投資資産	9,614					

投資その他の資産

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)					
	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
リース投資資産		6,782	4,951	4,612	4,612	52,275

(単位：千円)

	当連結会計年度 (2020年3月31日)					
	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
リース投資資産		7,783	7,444	7,444	4,612	47,662

2. オペレーティング・リース取引

(貸主側)

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
1年以内	183,246千円	212,286千円
1年超	1,849,166千円	1,819,239千円
合計	2,032,412千円	2,031,526千円

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については銀行への預入れのほか、主に安全性の高い金融資産で運用し、また、資金調達については銀行借入により調達しております。デリバティブは、為替の変動リスク及び借入金の金利変動リスクを回避するために利用し、投機的な取引は行いません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しましては、当社グループの「与信管理規程」に従い、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行うとともに、主な取引先の信用状況を毎年把握する体制としております。投資有価証券は、主に株式、債券、投資信託であり、それぞれ発行体の信用リスク、金利変動リスク、市場価格の変動リスクに晒されておりますが、純投資目的、または取引強化のため相互保有しているものであり、定期的に把握された時価が取締役に報告されております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、1年以内の支払期日であります。また、製品の輸入に伴う外貨建て営業債務は、為替の変動リスクに晒されておりますが、デリバティブ取引(為替予約取引)を利用してヘッジしております。

借入金のうち、短期借入金は主に営業取引に係る資金調達であり、長期借入金は主に設備投資に係る資金調達であります。変動金利の借入金は、金利の変動リスクに晒されておりますが、このうち長期のものは、支払金利の変動リスクを回避し支払利息の固定化を図るために、個別契約ごとにデリバティブ取引(金利スワップ取引)をヘッジ手段として利用しております。ヘッジの有効性の評価方法については、定期的に有効性の評価が取締役に報告されております。

長期預り保証金は、主に不動産活用事業における賃貸不動産に係る預り保証金であります。

デリバティブ取引の執行・管理については、取引権限を定めた社内規程に従って行っており、また、デリバティブの利用にあたっては、信用リスクを軽減するために、格付の高い金融機関とのみ取引を行っております。

また、営業債務や借入金は、流動性リスクに晒されておりますが、当社グループでは、各社が月次に資金繰計画を作成するなどの方法により管理しております。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

「2. 金融商品の時価等に関する事項」におけるデリバティブ取引に関する契約額等(「デリバティブ取引関係」注記参照)については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれておりません。(注)2を参照ください。)

前連結会計年度(2019年3月31日)

	連結貸借対照表 計上額(千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	2,039,631	2,039,631	
(2) 受取手形及び売掛金 貸倒引当金(1)	1,149,892 2,806		
	1,147,085	1,147,085	
(3) 有価証券及び投資有価証券 その他有価証券	2,724,988	2,724,988	
資産計	5,911,705	5,911,705	
(1) 支払手形及び買掛金	706,647	706,647	
(2) 短期借入金	50,000	50,000	
(3) 1年内返済予定の長期借入金	493,684	493,684	
(4) 1年内返還予定の預り保証金	507,639	507,639	
(5) 長期借入金	1,302,258	1,344,173	41,915
(6) 長期預り保証金	5,468,589	5,111,374	357,214
負債計	8,528,818	8,213,519	315,299
デリバティブ取引(2) ヘッジ会計が適用されていないもの	645	645	
デリバティブ取引計	645	645	

(1) 受取手形及び売掛金については対応する貸倒引当金を控除しております。

(2) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、( )で表示しております。

当連結会計年度(2020年3月31日)

	連結貸借対照表 計上額(千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	1,818,024	1,818,024	
(2) 受取手形及び売掛金 貸倒引当金(1)	979,880 4,904		
	974,975	974,975	
(3) 有価証券及び投資有価証券 その他有価証券	2,114,959	2,114,959	
資産計	4,907,960	4,907,960	
(1) 支払手形及び買掛金	469,612	469,612	
(2) 短期借入金	50,000	50,000	
(3) 1年内返済予定の長期借入金	811,450	811,450	
(4) 1年内返還予定の預り保証金			
(5) 長期借入金	3,669,214	3,794,210	124,996
(6) 長期預り保証金	5,494,917	5,106,833	388,084
負債計	10,495,194	10,232,105	263,088
デリバティブ取引(2) ヘッジ会計が適用されていないもの	5,182	5,182	
デリバティブ取引計	5,182	5,182	

(1) 受取手形及び売掛金については対応する貸倒引当金を控除しております。

(2) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、( )で表示しております。

(注) 1 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

#### 資産

(1) 現金及び預金、並びに(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっており、債券及び投資信託は取引所の価格または取引金融機関から提示された価格によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記を参照ください。

#### 負債

(1) 支払手形及び買掛金、(2) 短期借入金、(3) 1年内返済予定の長期借入金並びに(4) 1年内返還予定の預り保証金

これらは、短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(5) 長期借入金

これらの時価については、元利金の合計額を、新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(6) 長期預り保証金

保証金は、将来キャッシュ・フローを国債の利回り等適切な指標に信用リスクを上乗せした利率で割り引いた現在価値によっております。また、建設協力金のうち十分な担保を設定しているものは、信用リスクを上乗せしない利率で割り引いた現在価値によっております。

#### デリバティブ取引

「デリバティブ取引関係」注記を参照ください。

(注) 2 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額

区分	2019年3月31日(千円)	2020年3月31日(千円)
非上場株式	1,663,283	1,657,748

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「資産(3)有価証券及び投資有価証券」には含めておりません。

(注) 3 金銭債権及び満期がある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(2019年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超5年以内 (千円)	5年超10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	2,039,631			
受取手形及び売掛金	1,149,892			
有価証券及び投資有価証券				
その他有価証券のうち 満期があるもの		504,653	395,688	96,744
合計	3,189,524	504,653	395,688	96,744

当連結会計年度(2020年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超5年以内 (千円)	5年超10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	1,818,024			
受取手形及び売掛金	979,880			
有価証券及び投資有価証券				
その他有価証券のうち 満期があるもの	100,000	416,781	232,263	84,246
合計	2,897,905	416,781	232,263	84,246

(注) 4 長期借入金の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(2019年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)	5年超 (千円)
長期借入金	493,684	388,884	252,404	86,004	86,004	488,962

当連結会計年度(2020年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)	5年超 (千円)
長期借入金	811,450	693,742	549,724	516,924	532,790	1,376,034



(有価証券関係)

1. その他有価証券

前連結会計年度(2019年3月31日)

区分	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
(1) 株式	1,087,358	466,498	620,860
(2) 債券			
国債・地方債等			
社債	161,031	160,000	1,031
その他			
(3) その他	915,276	754,216	161,059
小計	2,163,666	1,380,714	782,951
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
(1) 株式	191,945	237,133	45,188
(2) 債券			
国債・地方債等			
社債	16,781	16,781	
その他			
(3) その他	352,594	389,963	37,369
小計	561,321	643,879	82,557
合計	2,724,988	2,024,594	700,394

当連結会計年度(2020年3月31日)

区分	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
(1) 株式	668,040	267,361	400,679
(2) 債券			
国債・地方債等			
社債			
その他			
(3) その他	389,572	307,094	82,478
小計	1,057,613	574,455	483,157
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
(1) 株式	287,582	357,577	69,994
(2) 債券			
国債・地方債等			
社債	170,805	176,781	5,976
その他			
(3) その他	598,958	684,158	85,199
小計	1,057,346	1,218,517	161,170
合計	2,114,959	1,792,973	321,986

2. 連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

区分	売却額(千円)	売却益の合計額(千円)	売却損の合計額(千円)
その他	101,319		2,861
合計	101,319		2,861

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

区分	売却額(千円)	売却益の合計額(千円)	売却損の合計額(千円)
株式	64,398	231	2,010
その他	298,051	8,104	14,674
合計	362,450	8,336	16,685

3. 減損処理を行った有価証券

前連結会計年度において、その他有価証券の債券について10,696千円の減損処理を行っております。

当連結会計年度において、その他有価証券の株式について13,015千円の減損処理を行っております。

なお、当該有価証券の減損処理にあたっては、個別銘柄毎に、連結会計年度末日の時価と帳簿価額との乖離状況等保有有価証券の時価水準を把握し、連結会計年度末日において下落率50%超の有価証券及び下落率30~50%の有価証券で過去1年以内に継続して30%を超えて下落している銘柄を減損処理の対象とすることとしております。

(デリバティブ取引関係)

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

通貨関連

前連結会計年度(2019年3月31日)

区分	種類	契約額等(千円)	契約額等のうち 1年超(千円)	時価(千円)	評価損益(千円)
市場取引 以外の取引	為替予約取引 買建 米ドル	388,860		389,505	645
	合 計	388,860		389,505	645

(注) 時価の算定方法 取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。

当連結会計年度(2020年3月31日)

区分	種類	契約額等(千円)	契約額等のうち 1年超(千円)	時価(千円)	評価損益(千円)
市場取引 以外の取引	為替予約取引 買建 米ドル	369,163		374,345	5,182
	合 計	369,163		374,345	5,182

(注) 時価の算定方法 取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社は、従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務に基づき計上しております。また、確定給付型の制度として退職一時金制度を設けており、中小企業退職金共済制度等に加入しております。

2. 中小企業退職金共済制度等

(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
退職給付に係る負債の期首残高	160,331千円	168,882千円
退職給付費用	35,968千円	33,750千円
退職給付の支払額	13,712千円	4,198千円
制度への拠出額	13,704千円	14,269千円
退職給付に係る負債の期末残高	168,882千円	184,164千円

(2) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
積立型制度の退職給付債務	332,590千円	362,602千円
年金資産	163,708千円	178,438千円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	168,882千円	184,164千円
退職給付に係る負債	168,882千円	184,164千円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	168,882千円	184,164千円

(3) 退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用	前連結会計年度	35,968千円	当連結会計年度	33,750千円
----------------	---------	----------	---------	----------

(ストック・オプション等関係)

1 スtock・オプションにかかる費用計上額及び科目名

	前連結会計年度	当連結会計年度
販売費及び一般管理費	855千円	1,036千円

2 権利不行使による失効により利益として計上した金額

	前連結会計年度	当連結会計年度
新株予約権戻入益	千円	1,408千円

3 スtock・オプションの内容、規模及びその変動状況

(1) スtock・オプションの内容

会社名	提出会社
決議年月日	2013年6月27日
付与対象者の区分及び人数	当社取締役 5名 その他 2名 (注)
株式の種類及び付与数	普通株式 22,000株
付与日	2013年7月25日
権利確定条件	付与日(2013年7月25日)から権利確定日(2015年7月24日)まで継続して勤務していること
対象勤務期間	2013年7月25日～2015年7月24日
権利行使期間	2015年7月25日～2019年6月27日

会社名	提出会社
決議年月日	2014年6月27日
付与対象者の区分及び人数	当社取締役 6名 その他 3名 (注)
株式の種類及び付与数	普通株式 36,000株
付与日	2014年7月29日
権利確定条件	付与日(2014年7月29日)から権利確定日(2016年7月28日)まで継続して勤務していること
対象勤務期間	2014年7月29日～2016年7月28日
権利行使期間	2016年7月29日～2020年6月27日

会社名	提出会社
決議年月日	2015年6月26日
付与対象者の区分及び人数	当社取締役 6名 その他 2名 (注)
株式の種類及び付与数	普通株式 36,000株
付与日	2015年7月28日
権利確定条件	付与日(2015年7月28日)から権利確定日(2017年7月27日)まで継続して勤務していること
対象勤務期間	2015年7月28日～2017年7月27日
権利行使期間	2017年7月28日～2021年6月26日

会社名	提出会社
決議年月日	2016年6月28日
付与対象者の区分及び人数	当社取締役 6名
株式の種類及び付与数	普通株式 31,000株
付与日	2016年7月27日
権利確定条件	付与日(2016年7月27日)から権利確定日(2018年7月26日)まで継続して勤務していること
対象勤務期間	2016年7月27日～2018年7月26日
権利行使期間	2018年7月27日～2022年6月28日

会社名	提出会社
決議年月日	2017年6月28日
付与対象者の区分及び人数	当社取締役 9名 その他 1名 (注)
株式の種類及び付与数	普通株式 37,000株
付与日	2017年7月27日
権利確定条件	付与日(2017年7月27日)から権利確定日(2019年7月26日)まで継続して勤務していること
対象勤務期間	2017年7月27日～2019年7月26日
権利行使期間	2019年7月27日～2023年6月28日

会社名	提出会社
決議年月日	2018年6月28日
付与対象者の区分及び人数	当社取締役 9名 その他 1名 (注)
株式の種類及び付与数	普通株式 37,000株
付与日	2018年7月26日
権利確定条件	付与日(2018年7月26日)から権利確定日(2020年7月25日)まで継続して勤務していること
対象勤務期間	2018年7月26日～2020年7月25日
権利行使期間	2020年7月26日～2024年6月28日

会社名	提出会社
決議年月日	2019年6月27日
付与対象者の区分及び人数	当社取締役 10名
株式の種類及び付与数	普通株式 37,000株
付与日	2019年7月26日
権利確定条件	付与日(2019年7月26日)から権利確定日(2021年7月25日)まで継続して勤務していること
対象勤務期間	2019年7月26日～2021年7月25日
権利行使期間	2021年7月26日～2025年6月27日

(注) 「その他」は、退任した取締役であります。

(2) ストック・オプションの規模及びその変動状況

当連結会計年度(2020年3月期)において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

ストック・オプションの数

会社名	提出会社	提出会社	提出会社	提出会社	提出会社
決議年月日	2013年 6月27日	2014年 6月27日	2015年 6月26日	2016年 6月28日	2017年 6月28日
権利確定前(株)					
前連結会計年度末					37,000
付与					
失効					
権利確定					37,000
未確定残					
権利確定後(株)					
前連結会計年度末	32,000	36,000	36,000	33,000	
権利確定					37,000
権利行使	10,000			2,000	
失効	22,000				
未行使残		36,000	36,000	31,000	37,000

会社名	提出会社	提出会社
決議年月日	2018年 6月28日	2019年 6月27日
権利確定前(株)		
前連結会計年度末	37,000	
付与		37,000
失効		
権利確定		
未確定残	37,000	37,000
権利確定後(株)		
前連結会計年度末		
権利確定		
権利行使		
失効		
未行使残		

単価情報

会社名	提出会社	提出会社	提出会社	提出会社	提出会社
決議年月日	2013年 6月27日	2014年 6月27日	2015年 6月26日	2016年 6月28日	2017年 6月28日
権利行使価格(円)	519	508	596	462	506
行使時平均株価(円)	414			345	
付与日における 公正な評価単価(円)	64	61	30	29	24

会社名	提出会社	提出会社
決議年月日	2018年 6月28日	2019年 6月27日
権利行使価格(円)	506	437
行使時平均株価(円)		
付与日における 公正な評価単価(円)	20	40

4 当連結会計年度に付与されたストック・オプションの公正な評価単価の見積方法

(1) 使用した評価技法

ブラック・ショールズ式

(2) 使用した主な基礎数値及びその見積方法

株価変動性 18.33%

過去2年の株価実績に基づき算定

予想残存期間 2年

十分なデータの蓄積が無く、合理的な見積りが困難であるため、権利行使期間の中間点において行使されるものと推定して見積もっております。

予想配当 14円/株

2019年3月期の配当実績による

無リスク利率 0.22%

予想残存期間に対応する期間に対応する国債の利回り

5 スtock・オプションの権利確定数の見積方法

将来の失効数の合理的な見積もりは困難であるため、見積もっておりません。



(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
<b>繰延税金資産</b>		
税務上の繰越欠損金(注)	443,434千円	585,467千円
退職給付に係る負債	53,938千円	58,224千円
役員退職慰労引当金	80,951千円	79,507千円
資産除去債務	243,248千円	109,213千円
繰延資産償却超過額	60,925千円	51,413千円
その他	163,260千円	165,134千円
繰延税金資産小計	1,045,758千円	1,048,961千円
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額(注)	55,782千円	146,607千円
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額	165,037千円	178,503千円
評価性引当額小計	220,820千円	325,111千円
繰延税金資産合計	824,938千円	723,850千円
<b>繰延税金負債</b>		
その他有価証券評価差額金	181,943千円	69,699千円
資産除去債務に対応する除去費用	92,135千円	90,985千円
固定資産圧縮積立金	43,875千円	42,355千円
その他	6,435千円	4,476千円
繰延税金負債合計	324,390千円	207,517千円
繰延税金資産純額	500,547千円	516,332千円

(注) 税務上の繰越欠損金及びその繰延税金資産の繰越期限別の金額

前連結会計年度(2019年3月31日)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超	合計
税務上の繰越欠損金(a)	1,291	3,909	3,860	161,123	5,280	267,969	443,434千円
評価性引当額	1,291	3,909	3,860	4,573	5,280	36,867	55,782千円
繰延税金資産				156,549		231,101	(b)387,651千円

(a) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

(b) 税務上の繰越欠損金443,434千円(法定実効税率を乗じた額)について、繰延税金資産387,651千円を計上しております。当該繰延税金資産を計上した税務上の繰越欠損金は、将来の課税所得の見込みにより、回収可能と判断し評価性引当額を認識しておりません。

当連結会計年度(2020年3月31日)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超	合計
税務上の繰越欠損金(a)	3,909	3,860	138,018	5,280	10,351	424,046	585,467千円
評価性引当額	3,909	3,860	84,460	5,280	10,351	38,744	146,607千円
繰延税金資産			53,557			385,301	(b)438,859千円

(a) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

(b) 税務上の繰越欠損金585,467千円(法定実効税率を乗じた額)について、繰延税金資産438,859千円を計上しております。当該繰延税金資産を計上した税務上の繰越欠損金は、将来の課税所得の見込みにより、回収可能と判断し評価性引当額を認識しておりません。

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった  
 主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
法定実効税率 (調整)	30.5%	30.5%
交際費等永久に損金に算入されない項目	10.3%	7.5%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	12.0%	8.9%
住民税均等割	19.3%	10.7%
評価性引当額	54.8%	290.9%
持分法による投資損益	22.0%	1.8%
連結子会社の適用税率差異	13.4%	7.6%
控除対象外源泉税	6.8%	3.2%
その他	2.9%	4.2%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	23.5%	335.5%

(資産除去債務関係)

1 資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

(1) 当該資産除去債務の概要

施設の定期借地権契約に伴う原状回復義務及び建設リサイクル法に基づく特定建設資材の再資源化費用等であり  
ます。

(2) 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を契約期間又は対象資産の耐用年数と見積り、割引率は当該期間に応じた国債の利率を使用して資  
産除去債務の金額を計算しております。

(3) 当該資産除去債務の総額の増減

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
期首残高	794,127千円	797,535千円
有形固定資産の取得に伴う増加額	千円	8,235千円
時の経過による調整額	3,408千円	3,446千円
資産除去債務の履行による減少額	千円	451,141千円
期末残高	797,535千円	358,075千円

2 連結貸借対照表に計上しているもの以外の資産除去債務

当社グループの一部の建物について、撤去時における建設リサイクル法に基づく特定建設資材の再資源化義務等  
を有しておりますが、当該債務に関連する建物の撤去時期が明確でなく、将来解体する予定もないことから、資産  
除去債務を合理的に見積ることができません。そのため、合理的な見積りが可能になったものを除いて、当該債務  
に見合う資産除去債務を計上しておりません。

(賃貸等不動産関係)

当社及び一部の連結子会社では、埼玉県を中心に賃貸商業施設、賃貸住宅等を所有しております。

2019年3月期における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は 326,979千円（賃貸収益は売上高に、賃貸費用は売上原価・販売費及び一般管理費に計上）、その他損益 20,275千円（主に営業外収益に計上された補助金収入 32,126千円、特別損失に計上された固定資産除却損50,000千円）であります。

2020年3月期における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は507,167千円（賃貸収益は売上高に、賃貸費用は売上原価・販売費及び一般管理費に計上）、固定資産除却損として営業外費用に計上した8,027千円、特別損失に計上した664,610千円であります。

また、当該賃貸等不動産の連結貸借対照表計上額、期中増減額及び時価は以下のとおりであります。

(単位：千円)

		前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
連結貸借対照表計上額	期首残高	11,489,014	11,196,881
	期中増減額	292,133	612,535
	期末残高	11,196,881	11,809,416
期末時価		20,062,981	24,078,487

- (注) 1 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額を控除した金額であります。
- 2 期中増減額のうち、前連結会計年度の主な増加は、大型商業施設の維持管理工事155,548千円であり、主な減少は減価償却によるものであります。  
当連結会計年度の主な増加は、大型商業施設の維持管理工事123,439千円、新たな賃貸施設の建設工事797,476千円であり、主な減少は減価償却によるものであります。
- 3 期末の時価は、主要な物件については社外の不動産鑑定士による不動産鑑定評価書に基づく金額、その他の物件については主として「不動産鑑定評価基準」に基づいて自社で算定した金額（指標等を用いて調整を行ったものを含む。）であります。
- 4 川口神根地区の賃貸等不動産（前連結会計年度2,182,919千円、当連結会計年度2,338,735千円）は、現在再開発中であることから、時価を把握することが極めて困難であるため、連結貸借対照表計上額には含めておりません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、事業本部を基礎とした製品・サービス別セグメントから構成されており、セグメント情報においては、「繊維事業」「不動産活用事業」「ゴルフ練習場事業」を報告セグメントとしております。

「繊維事業」は、繊維品の製造販売を行っており、「不動産活用事業」は、商業施設・その他不動産の賃貸及びビルメンテナンスの運営を行っており、「ゴルフ練習場事業」は、ゴルフ練習場の運営を行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額の算定方法

セグメント間の内部取引における価格は、外部顧客との取引価格に準じております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計
	繊維	不動産活用	ゴルフ練習場	計		
売上高						
外部顧客への売上高	4,996,889	2,205,633	871,749	8,074,272	364,251	8,438,524
セグメント間の内部 売上高又は振替高	8,400	270,328	44	278,773	108,164	386,937
計	5,005,289	2,475,962	871,793	8,353,045	472,416	8,825,462
セグメント利益又は損失( )	41,387	141,003	73,209	109,181	17,447	91,733
セグメント資産	2,286,718	14,070,864	1,947,718	18,305,301	464,591	18,769,893
その他の項目						
減価償却費	11,852	1,461,112	75,626	1,548,591	3,209	1,551,801
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	1,077	442,781	109,174	553,032	8,335	561,368

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ギフト事業、インテリア施工事業等を含んでおります。

当連結会計年度（自 2019年4月1日 至 2020年3月31日）

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計
	繊維	不動産活用	ゴルフ練習場	計		
売上高						
外部顧客への売上高	4,413,719	1,987,981	894,530	7,296,231	304,842	7,601,074
セグメント間の内部 売上高又は振替高	8,487	270,326	21	278,834	266,691	545,526
計	4,422,206	2,258,307	894,551	7,575,066	571,534	8,146,600
セグメント利益又は損失( )	72,976	696,971	80,456	704,451	33,672	738,124
セグメント資産	2,194,418	15,702,949	2,303,887	20,201,255	444,221	20,645,477
その他の項目						
減価償却費	9,307	494,243	103,615	607,167	2,858	610,026
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額 (注) 2	116,319	2,220,420	456,542	2,793,282	911	2,794,194

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、緑化事業、インテリア施工事業等を含んでおります。

2 有形固定資産および無形固定資産の増加額には、資産除去債務に対応する除去費用を含めておりません。

4. 報告セグメント合計額と連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

(単位：千円)

売上高	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	8,353,045	7,575,066
「その他」の区分の売上高	472,416	571,534
セグメント間取引消去	386,937	545,526
連結財務諸表の売上高	8,438,524	7,601,074

(単位：千円)

利益	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	109,181	704,451
「その他」の区分の利益	17,447	33,672
セグメント間取引消去	37	21,828
連結財務諸表の営業利益又は損失( )	91,695	716,295

(単位：千円)

資産	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	18,305,301	20,201,255
「その他」の区分の資産	464,591	444,221
全社資産(注)	7,520,770	6,706,019
連結財務諸表の資産合計	26,290,663	27,351,496

(注) 全社資産は主に余資運用資金（現金及び預金・有価証券）、長期投資資金（投資有価証券）及び管理部門に係る資産等であります。

(単位：千円)

その他の項目	報告セグメント計		その他		調整額(注)1		連結財務諸表計上額	
	前連結 会計年度	当連結 会計年度	前連結 会計年度	当連結 会計年度	前連結 会計年度	当連結 会計年度	前連結 会計年度	当連結 会計年度
減価償却費	1,548,591	607,167	3,209	2,858	-	-	1,551,801	610,026
有形固定資産及び無 形固定資産の増加額 (注)2	553,032	2,793,282	8,335	911	96,436	690	657,804	2,794,884

(注)1 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額は、管理部門及び全社に属する設備投資額であります。

2 有形固定資産及び無形固定資産の増加額には、資産除去債務に対応する除去費用を含めておりません。

【関連情報】

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
イオンモール㈱	1,971,265	繊維、不動産活用及びその他

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
イオンモール㈱	1,700,037	繊維、不動産活用及びその他
キャンパルジャパン㈱	769,175	繊維及びその他

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。



【関連当事者情報】

1. 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

該当事項はありません。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

該当事項はありません。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報

該当事項はありません。

(2) 重要な関連会社の要約財務情報

当連結会計年度において、重要な関連会社はネットヨタ東埼玉(株)であり、その要約財務情報は以下のとおりであります。

(単位：千円)

	ネットヨタ東埼玉(株)	
	前連結会計年度	当連結会計年度
流動資産合計	25,656,733	28,152,310
固定資産合計	10,309,490	9,843,298
流動負債合計	23,004,298	24,145,102
固定負債合計	10,237,376	11,144,120
純資産合計	2,724,549	2,706,386
売上高	33,082,915	36,317,528
税引前当期純利益又は税引前当期純損失( )	110,794	20,923
当期純利益	68,804	7,748

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
1株当たり純資産額	1,066.65円	1,027.39円
1株当たり当期純損失( )	6.02円	4.94円

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、希薄化効果を有する潜在株式は存在せず、また、一株当たり当期純損失であるため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純損失の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
1株当たり当期純損失( )		
親会社株主に帰属する当期純損失( )(千円)	79,385	65,190
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純損失( )(千円)	79,385	65,190
普通株式の期中平均株式数(株)	13,186,185	13,195,977
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 当期純利益の算定に含めなかった潜在株式の概要	潜在株式の種類と数 2013年から2018年発行分の ストックオプション  新株予約権 2,110個 詳細については「第4提出 会社の状況1株式等の状況 (2)新株予約権等の状況 ス tockオプション制度の内 容」に記載のとおりであり ます。	潜在株式の種類と数 2014年から2019年発行分の ストックオプション  新株予約権 2,140個 詳細については「第4提出 会社の状況1株式等の状況 (2)新株予約権等の状況 ス tockオプション制度の内 容」に記載のとおりであり ます。

3. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度末 (2019年3月31日)	当連結会計年度末 (2020年3月31日)
純資産の部の合計額(千円)	16,113,271	15,582,147
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)		
(うち新株予約権(千円))	(7,335)	(6,265)
(うち非支配株主持分(千円))	(2,038,945)	(2,014,381)
普通株式に係る期末の純資産額(千円)	14,066,991	13,561,500
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式 の数(株)	13,187,993	13,199,993

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	50,000	50,000	0.4	
1年以内に返済予定の長期借入金	493,684	811,450	0.4	
1年以内に返済予定のリース債務	25,196	24,937		
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	1,302,258	3,669,214	0.6	2021年4月～2046年3月
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	5,482	111,363		2021年4月～2027年3月
その他有利子負債				
合計	1,876,620	4,666,964		

- (注) 1 平均利率については、期末借入金残高に対する加重平均利率を記載しております。  
 2 リース債務の平均利率については、一部の所有権移転外ファイナンス・リース取引においてリース料総額に含まれる利息相当額を定額法により各連結会計年度に配分しているため、記載しておりません。  
 3 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年内における1年ごとの返済予定額の総額

区分	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	693,742	549,724	516,924	532,790
リース債務	21,616	21,320	21,320	18,842

【資産除去債務明細表】

明細表に記載すべき事項が連結財務諸表規則第15条の23に規定する注記事項として記載されているため、記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高 (千円)	2,101,665	3,972,871	5,735,041	7,601,074
税金等調整前四半期 (当期)純利益又は 税金等調整前四半期 純損失( ) (千円)	213,967	169,672	10,899	35,679
親会社株主に帰属する 四半期純利益又は 親会社株主に帰属する 四半期(当期)純損失 ( ) (千円)	116,731	145,823	47,339	65,190
1株当たり四半期 純利益又は 1株当たり四半期 (当期)純損失( ) (円)	8.85	11.05	3.59	4.94

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり 四半期純利益又は 1株当たり 四半期純損失( ) (円)	8.85	19.89	7.46	1.35

## 2 【財務諸表等】

## (1) 【財務諸表】

## 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	1,342,760	1,109,172
受取手形	3 209,578	178,939
売掛金	1 784,949	1 706,761
有価証券	-	99,990
商品及び製品	1,100,683	1,010,345
原材料及び貯蔵品	14,676	12,222
前払費用	71,078	76,134
未収入金	10,772	12,140
その他	1 341,180	1 265,726
貸倒引当金	26,956	28,933
<b>流動資産合計</b>	<b>3,848,722</b>	<b>3,442,500</b>
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物	2 7,792,027	2 8,344,812
構築物	302,085	339,309
車両運搬具	4,566	2,706
工具、器具及び備品	47,010	38,233
土地	2 5,967,383	2 6,134,538
リース資産	4,744	112,439
建設仮勘定	321,608	1,310,212
<b>有形固定資産合計</b>	<b>14,439,426</b>	<b>16,282,253</b>
<b>無形固定資産</b>		
ソフトウェア	32,557	23,186
<b>無形固定資産合計</b>	<b>32,557</b>	<b>23,186</b>
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	3,394,986	2,693,975
関係会社株式	79,540	79,540
出資金	100	200
関係会社長期貸付金	1 138,600	1 153,800
繰延税金資産	307,576	416,826
破産更生債権等	10,000	17,246
その他	1 204,106	1 277,051
貸倒引当金	144,011	199,200
<b>投資その他の資産合計</b>	<b>3,990,898</b>	<b>3,439,439</b>
<b>固定資産合計</b>	<b>18,462,882</b>	<b>19,744,879</b>
<b>資産合計</b>	<b>22,311,605</b>	<b>23,187,379</b>

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形	3 254,356	129,962
買掛金	431,837	318,933
短期借入金	50,000	50,000
1年内返済予定の長期借入金	2 493,684	2 774,250
未払金	1 33,988	1 59,404
未払費用	1 30,744	1 34,513
前受金	23,961	27,335
賞与引当金	41,746	40,793
資産除去債務	451,141	-
1年内返還予定の預り保証金	2 507,639	-
前受収益	2 11,873	4,071
その他	77,637	33,548
<b>流動負債合計</b>	<b>2,408,609</b>	<b>1,472,813</b>
<b>固定負債</b>		
長期借入金	1、2 2,302,258	1、2 4,455,714
リース債務	5,482	111,363
退職給付引当金	118,271	130,106
役員退職慰労引当金	200,975	189,883
長期預り保証金	1、2 5,482,187	1、2 5,508,396
長期前受収益	83,121	79,049
資産除去債務	346,394	358,075
<b>固定負債合計</b>	<b>8,538,689</b>	<b>10,832,588</b>
<b>負債合計</b>	<b>10,947,299</b>	<b>12,305,401</b>

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,402,000	1,402,000
資本剰余金		
資本準備金	825,348	825,348
その他資本剰余金	9,666	10,903
資本剰余金合計	835,014	836,252
利益剰余金		
利益準備金	266,398	266,398
その他利益剰余金		
固定資産圧縮積立金	99,977	96,515
特別償却準備金	5 18,186	5 16,040
別途積立金	7,569,000	7,569,000
繰越利益剰余金	951,644	725,839
利益剰余金合計	8,905,206	8,673,792
自己株式	309,347	303,772
株主資本合計	10,832,873	10,608,272
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	524,096	267,440
評価・換算差額等合計	524,096	267,440
新株予約権	7,335	6,265
純資産合計	11,364,306	10,881,978
負債純資産合計	22,311,605	23,187,379

## 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月 31日)	当事業年度 (自 2019年 4月 1日 至 2020年 3月 31日)
<b>売上高</b>		
商品及び製品売上高	1 4,870,251	1 4,312,391
不動産賃貸収入	1 2,450,596	1 2,231,519
売上高合計	7,320,848	6,543,911
<b>売上原価</b>		
商品及び製品売上原価	1 4,039,217	1 3,606,759
不動産賃貸費用	1,2 2,056,224	1,2 1,014,939
売上原価合計	6,095,442	4,621,698
<b>売上総利益</b>	1,225,405	1,922,212
販売費及び一般管理費	1,3 1,404,017	1,3 1,286,791
<b>営業利益又は営業損失( )</b>	178,611	635,421
<b>営業外収益</b>		
受取利息及び配当金	1 82,634	1 94,004
その他	75,553	27,947
営業外収益合計	158,188	121,951
<b>営業外費用</b>		
支払利息	1 41,242	1 34,896
有価証券売却損	3,501	16,685
固定資産除却損	4,115	12,611
貸倒引当金繰入額	76,682	47,676
その他	1 3,282	1 7,936
営業外費用合計	128,824	119,806
<b>経常利益又は経常損失( )</b>	149,248	637,566
<b>特別利益</b>		
新株予約権戻入益	-	1,408
特別利益合計	-	1,408
<b>特別損失</b>		
固定資産除却損	4 50,000	4 664,610
投資有価証券評価損	10,696	13,015
特別損失合計	60,696	677,626
<b>税引前当期純損失( )</b>	209,944	38,652
法人税、住民税及び事業税	5,307	3,020
法人税等調整額	41,939	2,993
法人税等合計	36,632	6,013
<b>当期純損失( )</b>	173,312	44,665



【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金	
						配当準備積立金	固定資産圧縮積立金
当期首残高	1,402,000	825,348	9,560	834,909	266,398	180,000	74,298
当期変動額							
剰余金の配当							
当期純損失( )							
自己株式の処分			105	105			
配当準備積立金の取崩						180,000	
固定資産圧縮積立金の積立							28,239
固定資産圧縮積立金の取崩							2,560
特別償却準備金の取崩							
別途積立金の取崩							
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)							
当期変動額合計	-	-	105	105	-	180,000	25,678
当期末残高	1,402,000	825,348	9,666	835,014	266,398	-	99,977

	株主資本					
	利益剰余金				自己株式	株主資本合計
	その他利益剰余金			利益剰余金合計		
	特別償却準備金	別途積立金	繰越利益剰余金			
当期首残高	20,619	8,389,000	374,842	9,305,158	311,205	11,230,861
当期変動額						
剰余金の配当			226,639	226,639		226,639
当期純損失( )			173,312	173,312		173,312
自己株式の処分					1,858	1,964
配当準備積立金の取崩			180,000	-		-
固定資産圧縮積立金の積立			28,239	-		-
固定資産圧縮積立金の取崩			2,560	-		-
特別償却準備金の取崩	2,433		2,433	-		-
別途積立金の取崩		820,000	820,000	-		-
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)				-		-
当期変動額合計	2,433	820,000	576,802	399,952	1,858	397,988
当期末残高	18,186	7,569,000	951,644	8,905,206	309,347	10,832,873

(単位：千円)

	評価・換算差額等		新株予約権	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計		
当期首残高	644,751	644,751	6,595	11,882,209
当期変動額				
剰余金の配当				226,639
当期純損失( )				173,312
自己株式の処分				1,964
配当準備積立金の取崩				-
固定資産圧縮積立金の積立				-
固定資産圧縮積立金の取崩				-
特別償却準備金の取崩				-
別途積立金の取崩				-
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)	120,654	120,654	739	119,915
当期変動額合計	120,654	120,654	739	517,903
当期末残高	524,096	524,096	7,335	11,364,306

当事業年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金	
						配当準備積立金	固定資産圧縮積立金
当期首残高	1,402,000	825,348	9,666	835,014	266,398	-	99,977
当期変動額							
剰余金の配当							
当期純損失( )							
自己株式の処分			1,237	1,237			
配当準備積立金の取崩						-	
固定資産圧縮積立金の積立							-
固定資産圧縮積立金の取崩							3,461
特別償却準備金の取崩							
別途積立金の取崩							
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)							
当期変動額合計	-	-	1,237	1,237	-	-	3,461
当期末残高	1,402,000	825,348	10,903	836,252	266,398	-	96,515

	株主資本					
	利益剰余金				自己株式	株主資本合計
	その他利益剰余金			利益剰余金合計		
	特別償却準備金	別途積立金	繰越利益剰余金			
当期首残高	18,186	7,569,000	951,644	8,905,206	309,347	10,832,873
当期変動額						
剰余金の配当			186,747	186,747		186,747
当期純損失( )			44,665	44,665		44,665
自己株式の処分					5,574	6,812
配当準備積立金の取崩			-	-		-
固定資産圧縮積立金の積立			-	-		-
固定資産圧縮積立金の取崩			3,461	-		-
特別償却準備金の取崩	2,145		2,145	-		-
別途積立金の取崩		-	-	-		-
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)				-		-
当期変動額合計	2,145	-	225,805	231,413	5,574	224,601
当期末残高	16,040	7,569,000	725,839	8,673,792	303,772	10,608,272

(単位：千円)

	評価・換算差額等		新株予約権	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計		
当期首残高	524,096	524,096	7,335	11,364,306
当期変動額				
剰余金の配当				186,747
当期純損失( )				44,665
自己株式の処分				6,812
配当準備積立金の取崩				-
固定資産圧縮積立金の積立				-
固定資産圧縮積立金の取崩				-
特別償却準備金の取崩				-
別途積立金の取崩				-
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)	256,656	256,656	1,070	257,726
当期変動額合計	256,656	256,656	1,070	482,328
当期末残高	267,440	267,440	6,265	10,881,978

【注記事項】

(重要な会計方針)

1 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的の債券 償却原価法(定額法)

子会社株式及び関連会社株式 移動平均法による原価法

その他有価証券

時価のあるもの 決算期末日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの 移動平均法による原価法

(2) たな卸資産の評価基準及び評価方法

評価基準は原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっております。

繊維部門 移動平均法

(3) デリバティブ取引の評価基準及び評価方法

デリバティブ 時価法

2 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

1998年4月1日以降に取得した建物(附属設備を除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法、それ以外の有形固定資産については定率法を採用しております。

なお、主な耐用年数は、建物15～39年、構築物10～20年であります。

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法によっております。

なお、償却年数については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。

(3) リース資産

所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法によっております。

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとして算定する定額法によっております。

3 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率法により、貸倒懸念債権及び破産更生債権等については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、将来の支給見込額のうち、当事業年度の負担額を計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務見込額及び年金資産残高に基づき計上しております。

(4) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に充てるため、内規に基づく当事業年度末要支給額を計上しております。

4 収益及び費用の計上基準

ファイナンス・リース取引に係る収益の計上基準

リース料受取時に売上高と売上原価を計上する方法によっております。また、転リース取引については、リース料受取時に転リース差益を営業外収益に計上する方法によっております。

5 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) ヘッジ会計の方法

為替予約については、振当処理の要件を満たす場合には振当処理を採用しております。また、金利スワップについては、特例処理の要件を満たす場合には特例処理を採用しております。

(2) 消費税等の会計処理方法

税抜方式を採用しております。控除対象外消費税等は当事業年度の期間費用としております。

(表示方法の変更)

(損益計算書関係)

前事業年度において独立掲記しておりました「営業外収益」の「補助金収入」は重要性が乏しくなったため、当事業年度より、「営業外収益」の「その他」に含めて表示しております。また、前事業年度において、「営業外費用」の「その他」に含めていた「有価証券売却損」及び「固定資産除却損」は重要性が増したため、当事業年度より独立掲記することとしております。

この結果、前事業年度の損益計算書において、「営業外収益」の「補助金収入」40,632千円、「その他」34,921千円及び、「営業外費用」の「その他」10,898千円は、それぞれ「営業外収益」の「その他」75,553千円、「営業外費用」の「有価証券売却損」3,501千円、「固定資産除却損」4,115千円及び「その他」3,282千円として組み替えております。

(貸借対照表関係)

1 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
短期金銭債権	63,942千円	42,338千円
長期金銭債権	157,399千円	205,341千円
短期金銭債務	6,658千円	31,518千円
長期金銭債務	1,024,500千円	1,024,500千円

2 担保に供している資産及び担保付債務は以下のとおりであります。

担保に供している資産

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
建物	5,240,696千円	5,095,509千円
土地	1,634,935千円	1,625,899千円
合計	6,875,632千円	6,721,408千円

担保付債務

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
1年内返済予定の長期借入金	460,884千円	740,650千円
1年内返還予定の預り保証金	490,000千円	千円
前受収益	7,644千円	千円
長期借入金	1,302,258千円	3,389,314千円
長期預り保証金	2,933,572千円	2,940,000千円
合計	5,194,358千円	7,069,964千円

3 期末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、期末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形が、期末残高に含まれております。

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
受取手形	10,912千円	千円
支払手形	81,299千円	千円

4 当社は、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行4行と当座貸越契約及び貸出コミットメント契約を締結しております。

事業年度末における当座貸越契約及び貸出コミットメントに係る借入未実行残高等は次のとおりであります。

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
当座貸越極度額 及び貸出コミットメントの総額	1,000,000千円	1,000,000千円
借入実行残高	千円	千円
差引額	1,000,000千円	1,000,000千円

5 特別償却準備金は租税特別措置法に基づいて計上したものであります。



(損益計算書関係)

1 関係会社との取引高

	前事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当事業年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
営業取引(売上分)	426,671千円	408,166千円
営業取引(仕入分)	87,659千円	68,109千円
営業取引以外の取引	20,013千円	21,278千円

2 不動産賃貸費用の内容は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当事業年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
租税公課	353,380千円	315,816千円
減価償却費	1,473,431千円	501,809千円
その他	229,413千円	197,313千円
合計	2,056,224千円	1,014,939千円

3 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額並びにおおよその割合は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当事業年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
役員報酬	201,789千円	205,024千円
給料及び手当	453,570千円	382,566千円
賞与引当金繰入額	41,746千円	40,793千円
退職給付費用	32,240千円	29,139千円
役員退職慰労引当金繰入額	12,154千円	10,563千円
貸倒引当金繰入額	3,135千円	9,489千円
減価償却費	20,764千円	17,015千円
おおよその割合		
販売費	65.5%	63.3%
一般管理費	34.5%	36.7%

4 固定資産除却損

前事業年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

当事業年度の計上額50,000千円は、主にイオンモール川口の解体撤去の一部が完了したことによるものであります。

当事業年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

当事業年度の計上額664,610千円は、イオンモール川口の解体撤去が完了したことによるものであります。

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式は、市場価格がなく時価を把握することが極めて困難と認められるため、子会社株式及び関連会社株式の時価を記載していません。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式の貸借対照表計上額は次のとおりです。

(単位：千円)

区分	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
子会社株式	14,540	14,540
関連会社株式	65,000	65,000
計	79,540	79,540

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
<b>繰延税金資産</b>		
貸倒引当金	52,145千円	69,580千円
退職給付引当金	36,072千円	39,682千円
役員退職慰労引当金	61,297千円	57,914千円
投資有価証券評価損	7,081千円	11,322千円
関係会社株式	53,680千円	53,680千円
減損損失	58,709千円	58,410千円
資産除去債務	243,248千円	109,213千円
税務上の繰越欠損金	231,101千円	385,301千円
その他	137,419千円	105,724千円
繰延税金資産小計	880,755千円	890,829千円
評価性引当額	248,789千円	266,485千円
繰延税金資産合計	631,966千円	624,344千円
<b>繰延税金負債</b>		
固定資産圧縮積立金	43,875千円	42,355千円
その他有価証券評価差額金	181,943千円	69,699千円
資産除去債務に対応する除去費用	92,135千円	90,985千円
その他	6,435千円	4,476千円
繰延税金負債合計	324,390千円	207,517千円
繰延税金資産純額	307,576千円	416,826千円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった  
 主要な項目別の内訳

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
法定実効税率 (調整)	30.5%	30.5%
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.3%	6.8%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	2.6%	13.6%
住民税均等割	2.0%	7.5%
評価性引当額	11.9%	45.8%
その他	0.5%	0.4%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	17.4%	15.6%

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：千円)

区分	資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却累計額
有形固定資産	建物	7,792,027	1,007,055	2,185	452,084	8,344,812	8,074,495
	構築物	302,085	83,150	5,102	40,824	339,309	1,225,709
	車両運搬具	4,566			1,859	2,706	5,824
	工具、器具及び備品	47,010	6,806	0	15,583	38,233	173,875
	土地	5,967,383	167,155			6,134,538	
	リース資産	4,744	109,914		2,218	112,439	3,290
	建設仮勘定	321,608	1,174,527	185,923		1,310,212	
	計	14,439,426	2,548,609	193,211	512,570	16,282,253	9,483,194
無形固定資産	ソフトウェア	32,557		2,415	6,956	23,186	11,593
	計	32,557		2,415	6,956	23,186	11,593

(注) 1. 当期増加額のうち主なものは、次のとおりであります。

建物	かわぐちレディースクリニック 建物	807,933千円
建物	イオンモール川口前川 自火報感知器交換工事	124,300千円
建設仮勘定	(仮称)イオンモール川口 新築工事等(一部税込)	1,113,166千円

2. 当期減少額のうち主なものは、次のとおりであります。

建設仮勘定	かわぐちレディースクリニック 工事請負等(税込)	139,240千円
-------	--------------------------	-----------

【引当金明細表】

(単位：千円)

科目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸倒引当金	170,968	57,198	32	228,134
賞与引当金	41,746	40,793	41,746	40,793
役員退職慰労引当金	200,975	10,563	21,655	189,883

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

## 第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日、3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内1丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内1丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
取次所	号
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	東京都内において発行する日本経済新聞に掲載します。
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 当社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができません。

会社法第189条第2項各号に掲げる権利

会社法第166条第1項の規定による請求をする権利

株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利

## 第7 【提出会社の参考情報】

### 1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

### 2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に次の書類を提出しております。

#### (1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度 第96期(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日) 2019年6月27日関東財務局長に提出。

#### (2) 内部統制報告書及びその添付書類

2019年6月27日関東財務局長に提出。

#### (3) 四半期報告書及び確認書

第97期第1四半期(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日) 2019年8月9日関東財務局長に提出。

第97期第2四半期(自 2019年7月1日 至 2019年9月30日) 2019年11月8日関東財務局長に提出。

第97期第3四半期(自 2019年10月1日 至 2019年12月31日) 2020年2月7日関東財務局長に提出。

#### (4) 臨時報告書

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2(株主総会における議決権行使の結果)の規定に基づく  
臨時報告書

2019年7月2日関東財務局長に提出。

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号(代表取締役の異動)の規定に基づく臨時報告書

2020年5月22日関東財務局長に提出。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。



## 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2020年6月26日

サイボー株式会社  
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 高橋正伸

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 渡邊康一郎

### <財務諸表監査>

#### 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているサイボー株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、サイボー株式会社及び連結子会社の2020年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 連結財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 連結財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として連結財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、連結財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・ 連結財務諸表に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、連結財務諸表の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

## < 内部統制監査 >

### 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、サイボー株式会社の2020年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

当監査法人は、サイボー株式会社が2020年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準における当監査法人の責任は、「内部統制監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 内部統制報告書に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告に係る内部統制の整備及び運用状況を監視、検証することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

### 内部統制監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した内部統制監査に基づいて、内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、内部統制監査報告書において独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための監査手続を実施する。内部統制監査の監査手続は、監査人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。
- ・ 財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討する。
- ・ 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、内部統制報告書の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した内部統制監査の範囲とその実施時期、内部統制監査の実施結果、識別した内部統制の開示すべき重要な不備、その是正結果、及び内部統制の監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

## 独立監査人の監査報告書

2020年6月26日

サイボー株式会社  
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 高橋正伸

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 渡邊康一郎

### 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているサイボー株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの第97期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、サイボー株式会社の2020年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

### 財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

(注) 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。